京城日報

十三日夕刊
（朝夕刊併せて八頁）

◎休戰條約交換と調印 十二月七日より十七日迄

去る三日ブレストリトウスクにて露國全權委員と獨墺勢土四國全權委員との間に戰鬪行動中止に關し左の條約交換調印を了せり（定州特電）

（一）戰鬪行爲の中止は十二月七日正午より十七日正午に至る

（二）相互豫告後三日の後に於て戰鬪行爲を開始する權利を有す

（イ）戰鬪動作中止地帶は全戰線、黒海及び波羅的海並に亞細亞方面の露土戰線地帶を含む、其の上空も亦同じ

（ロ）モーン海峽（モーン、ダゴ兩島エストニアの間）に於ける獨軍軍事行動を中止す

（ハ）航空機の飛行は海面にのみ限られ陸地の飛行を禁止す

（ニ）海上よりの海岸砲擊を禁止す

（三）歐洲戰線方面に於ける中立地帶は全線に互りて前線に二線の鐵條網を張りて境界とす兩線の中間は中立地帶にて亞細亞方面に於ける中立地帶は兩軍司令官にて之を定む

（四）十二月五日前の命令にして師團若しくは師團よりも少しく多き兵力の移動は戰鬪中止期間と雖も支障へ無し

◎伊軍陣地を奪還す

伊軍はオシ[illegible]に於ける陣地全部を奪還せり（羅馬電報）

◎スカルプ方面戰況

スカルプ方面に於ける敵味方の航空隊と砲兵隊の活動盛んなり敵軍は猛烈に攻擊を續行しつゝあり（倫敦電報）

◎千代田出動

軍艦千代田は十三日呉港拔錨南支方面警備並に在留邦人保護の爲め出動すべし（東京電報）

◎朱家寶氏歸國

日本滯在中の朱家寶氏は十四日神戸發青島に向ひ天津に歸省する由（東京電報）

◎政務總監招待

山縣政務總監は十四日午後四時目下開會中の農業技術官會議に出席の爲入京中なる各道技術官其他を京城ホテルに招待し茶菓の饗應をする由なるが當日は宇佐美[illegible]、[illegible]兩長官、荻田局長、西[illegible]農務、遠藤[illegible]課長、綾田、三井兩技師出席すべし

◎農業技術官會議（第四日）

農業技術官會議第四日は十三日午前十時より總督府第二會議室に於て開會午前中に[illegible]協議事項に就き協定する處ありたり

◎師團經理會議

第十九師團司令部にては十二日より十五日迄の豫定にて經理會議開催中なるが其の出席者は[illegible]

△歩兵 第七十三聯隊[illegible]、第七十四聯隊[illegible]、第七十七聯隊[illegible]、第七十八聯隊[illegible]
△騎兵 第二十七聯隊渡邊少佐
△砲兵 第二十五聯隊[illegible]
△工兵 第十九大隊川野少佐

◎匯業銀行設立協議會 明年一月より開業

支那匯業銀行設立協議會は十二日午前十一時より興業銀行、臺灣銀行、朝鮮銀行等シンジケート銀行團、中日實業、東亞興業、大倉、久原、淺野等の代表者銀行集會所に會合の上開會小野興銀副總裁、岩佐理事より今日迄の經過、株式引受狀況等の報告あり株式は興銀、臺銀、鮮銀にて最初一萬株宛引受る豫定なりしも支那關係の會社及び個人にて希望多き爲め之を六千八百株宛とし東京銀行團は一千株宛を、大阪銀行團は五百株宛を、殘餘は會社個人に割當てを了せりとの事にて次で重役選任に移り總理及び理事監事各二名は支那より專務理事及び理事監事各二名は日本より選任す可く、總理に陸宗輿氏、專務理事に柿内常次郎氏を推薦せる事既報の如く、理事二名は三銀行中より、監事二名は其他の株主より選定する事となれり。斯くて來る十七日第一回五十圓宛の拂込を了したる上日本側代表者渡支し北京にて創立總會を開催し、明年一月より開業の豫定なり（東京電報）

△業務種目 片岡氏の渡支

支那匯業銀行が、明年一月より開業の事は別項の如くなるが、右に就き支那側株主との協議及び各般準備の爲め興業銀行の片岡氏は行員を從へ支那に向へり、因に同行の定款は、七章三十八條より成り業務は、貸附及び割引、預金、爲替に關する一切の業務、國債、地方債及び社債の應募引受、各種經濟借款の取扱、債務の保證、確實なる會社商店の商品販賣代辨等にし、業務の都合に依りては有價證券地金銀の賣買及び兩替、金銀貨幣、貴金屬諸證券の保護預り、官公衙及び諸會社の金錢取引、投資、諸銀行の代理業務、巨額の借入金を爲す事を得、銀行兌換券をも發行する事を得と。（東京電報）

◎救恤金御下賜

天皇皇后兩陛下には天津水害の慘狀を聞召され天津水害救助會に對し金二萬圓御下賜の御沙汰あり（東京電報）

◎金融組合監督規程改正要旨 有賀理財課長談

△現狀と改正本旨

地方金融組合は明治四十年以來毎年十箇所乃至二十箇所宛設立され現今に於ては既に二百六十箇所を算し組合員數十一萬人に達し各組合共概して良好の成績を收め地方經濟力の增進に寄與しつゝあること尠少でない然し乍ら其組合員數は全朝鮮農家の百分の三強に過ぎず中小農民中にはなほ自作耕地を失ひ小作人となり或は流民となる等農民の中堅たる自作農民漸次減少するの趨勢に在るを救ひ進んで尚未だ幼稚の域を脱せざる農家の本業及び副業に就き將來大に發達を圖るの必要なるは勿論であるが今後益々組合の數を增加し金融の改善を加ふべき點少からざる必要あると同時に組合の利便を徹底せしむる爲め組合の業務に幾多の改善を加ふるの必要がある之に應ずる手段として本月一日朝鮮總督府令第九十二號を以て地方金融組合業務の監督規程に一部改正を加へ組合に於ける[illegible]

△貸付用途の擴張

改正の第一は資金貸付の用途及び貸付期限に關し[illegible]土地を擔保とした資金貸付の用途に作用土地の買入資金を貸付くる事は許して居たが從來の慣例に依ると自作用土地の買入資金を貸付ける事は許して居た[illegible]農民が土地の開墾買入又は不時の需に依て已を得ざる費用を要し組合以外から借金をしたが高利で其償還に困難に陷り遂には擔保に入れた土地を債權者の手に渡さねばならぬ樣な事は珍しくない例であるが、若し斯る場合に組合から低利資金を融通して其借金を返却せしむれば其土地は農民の手から失はれずに濟む要するに農民は組合から資金の融通を受けて土地を買つたと同一の效果を舉げ組合員經濟の發達に資するのであるから上述の如く自作用土地買入資金の外自作[illegible]

[illegible]

△金額及期間擴張

[illegible]

△短期償還を困難とす

[illegible]

△可成利子歩合の低廉

[illegible]

◎米大統領教書 對獨戰爭の意義を論ず

[illegible]

△中毒したる露國

戰爭の初めに於て此等の事態が明白となり居りしならば露國人民の同情熱は一齊に聯合國に傾倒したるならん其の目的の同一を知らしめ得たるも其の猜忌不信は一掃せられ永久に彼等に革命の當時是等の事項を信認し爾來其信認の念しから自由國民の秩序確立に努力せる根柢あり彼等の政府を建設せんと努力せる進路に可くも失はしを最近勃發せる如き悲惨なる露國民を敗れる事を同盟し得るならん露國の步を闇黒裡に抑留し來れると同じき欺瞞の淵に中てられたるものにして[illegible]

[illegible]

△墺洪國との宣戰

[illegible]

◎羅州丸就航期

[illegible]

◎團隊長招待

[illegible]

◎群山[illegible]

[illegible]

人事消息

[illegible]

◎列車と嚬擾

[illegible]

◎鮮銀本店[illegible]

[illegible]

◎大倉男退京

入京中なりし大倉喜八郎男の一行は十三日午前八時四十分南大門驛發列車にて出發[illegible]

◎石塚總裁出發期

[illegible]石塚總裁の京城出發期は十七日午前八時四十分[illegible]

◎藤川長官入京

[illegible]

◎工藤長官歸任

[illegible]

◎股野氏等歸期

[illegible]

忙中閑記（五） 青霞生

○五重塔の代表作では、推古時代の法隆寺弘仁期の室生寺藤原時代の醍醐寺鎌倉時代の海住山寺室町時代の興福寺德川期の東寺等がある。法隆寺五重塔は塔中の白眉で[illegible]

[illegible]

●巧妙なる畫筆を御賞美
◇◇御趣味深き李王殿下
昌德宮に召され御前で得意の揮毫を試みた福井江亭畫伯

目下白木の別邸に滯在して釣りに彩管に親しんでゐる福井江亭畫伯は去十二日午後二時より昌德宮に召されて李王殿下の御前で午後六時頃まで金剛山の風景其の他山水花鳥の畫數點又は扇額を六十餘揮毫して殿下から[illegible]御感に預つた今其時の模樣を聞くに

當日午後二時王殿下には閔長官、國分次官、李王職各課長、及び武官贊侍等合せて十數名を随へられ東行閣の大廣間に福井江亭畫伯を召し揮毫を命ぜられた畫伯は初め

▽牡丹の彩畫を描き終りて夫れより次の揮軸用絹地へ並行せる二本の直線を描いた是より、先き殿下は畫伯の身許を御尋ねあり次官は氏が美術學校教授たる事及び位階等をも申上げたるに殿下は成る程一管の彩筆にて從六位を辱ふする腕前美事なりと一層熱心に映覽せられ、此の二本の並行せる線を見て遽かに『チヤカン』（次官のこと）を呼ばれ『然は此の二本の

▽細き線と太き線を何と見らるゝや』との御尋ねありしも次官は一寸御返辭に詰り『サア如何なものとなすや判りませぬ』と御答へ申せしに今度は『長官』と呼ばれ同樣の御尋ねがあつたが長官も之には殆ど困り御答に詰つたので、殿下は益々興に乘じられ今度は左右の誰彼なしに御尋ねがあつたが誰一人御答へ申上ぐるものが無つた、處が此の畫が一本の太い竹の幹であつて而かも倒まに殿下の方へ向けて描くものであつた。軈て葉が出來、枝が描かれて

▽立派に美事な竹となつて其上ならず『江亭』と署した名前までを倒まに殿下の方へ向けて書いたので殿下は益々興に乘じられて、今まで椅子に掛けられてゐたのが段々乘出されて了ひには起上つて御覽になる樣になり、知らず識らずに進まれたので今まで夢中になつて陪觀してゐた贊侍武官等は慌てゝ椅子を持運び殿下も之に氣付かれて莞爾として左右に向はれ頻り

▽畫筆の巧妙なる事を御賞美遊ばされた其れより畫伯は松に支那産のハハドリの圖、富士山の圖を描きて金剛山萬物相の奇趣を揮毫し了つた時、殿下は長官次官以下に『成程此の畫は神に入つてゐる、誰か金剛山へ行つた者は居ないか』と仰られ殊に非常に御滿悦の體であつた、此の日禁苑の喜は外には朔風吹荒びて風の音さへ鳴止まなかつたが東行閣の御居間のみは、思ひ設けぬ面白き御前揮毫があつたので殿下を初め

▽侍臣一同何れも打興じて殊に趣味深き春の如き氣分が漂つた、[illegible]所望あり、遂に[illegible]畫を描き終りたる時は午後五時過ぎに及びたるを以て、畫伯も思ひ設けぬ光榮に浴し茶菓の御饗應に預りて退出したるは灯ともし頃なりしと聞及ぶ。

●手負虎を逸す 征虎軍の動靜

征虎軍留部班は撥校も各方面に出動せる砲手は盛んに活動中なるが最近達したる消息に依れば元山組の白雲僧及び菊谷力藏の兩組は五日打切の筈なりしも一週間延期して奥地に踏み込みたるが其後の詳細に就て通せず本田組は目下[illegible]洞山中に於て[illegible]龍根、[illegible]の兩組は必死を期して[illegible]方面の捜索中なるが[illegible]の各砲手は[illegible]一頭を[illegible]一發にて[illegible]に逸したる由

八雲琴（十二）（淪落の女の末路）

そしていさ子は何喰はぬ顏してAの座敷に戻つて居て今の通り

◇仲居に渡したのである

Aはいさ子が何をするやら大破醉して判らなかつた然るに帳場に恰度仲居が件の替券を渡す所に渡した情死志願者が來ていさ子に[illegible]んで居たのを取り返して呉れと頼んで居た所なので、「其替券は俺の物だ」と叫んだ帳場は一つくりしていさ子を呼んだ其時はいさ子もAもウイスキーの爲めに醉うて居て

◇動かなかつたけれども仲居が呼びに來るのでどうしたのかといさ子に尋ねたら「嫌だわ[illegible]すから貰つて下さい」と[illegible]「後に任せて置いて下さい」と云つて下に降りて行つた、サー下では[illegible]

大騷ぎだ志願者先生大立腹でいさ子を打つたいさ子も大辯で罵倒して「馬鹿男を欺して未來の夫にみつのは娼賣人の腕前だ色男氣取るなら生れ直ほつて來い」と云ひ條件の替券を滅茶苦茶に破つて男の顏に投げつけた餘り騷がしいのでAが出て行つたら彼の男はAの顏を見るなり一目散に逃げ出したのである其夜の勘定はAの散布を逆さにして仕拂つたいさ子は泣いてAの財布を[illegible]した事を詫びたAはいさ子が旅費を作らんが爲め如上の樣な非常手段迄取るに至つたのを憫れんだ其夜いさ子は「彼の男が今後どんな事をするかもわからぬから妾は一時身をかくして[illegible]所に行き彼の地で金を[illegible]借金を濟ましましよう」と云つて[illegible]しAとしては彼女に來られては

では或る事業の爲めにならぬので「[illegible]大した度胸の有る男でも有るまいから打捨て置いても大丈夫だから僕が遠からず迎へに來る迄待つてお出でなさい」と云つたAは其の翌朝一先ず旅館に歸つたそして或る知人に頼んで若干の旅費を得て其日出發の豫定だつたが時間に遲れた爲め其日も滯在する事にした其夜寂しくもあるし心配になるしAは亦々美人樓を訪づれたそしたら仲居がいさ子はお客さん[illegible]外出したと云つた然し何だか其態度や言語が怪しいので之は何か僕を欺瞞して逢はせぬのだなと[illegible]京城に引返した[illegible]

●嬉しい望み 小さき胸に
▽小學校の卒業生は何うなる

來年三月に學校を卒業すべき京城公立小學校兒童の內中學程度の各學校に入學し樣と云ふ嬉しい希望を有して居る者は何れだけあるかといふに京城府が調査した所に由ると府內七公立小學校兒童數は合計八百八十九人で內尋常科四百二十四名高等科四百六十五名である右の內

◆男子の部では尋常科四百二十四名中各學校へ進むもの百八十八人、高等商業學校に四十人、工業傳習所に六人、公立農學校に一人、內地中學校に三人、高等小學校及び家事に從業するもの百八十五人

◆高等科生徒は四百六十五人の中[illegible]商業へ八十三人工業傳習所へ二十三人公立農學校へ三人內地中學校へ十三人家事に從事するもの百八十三人を算し而して

◆女子の部では尋常科高等科雙方で生徒數六百二十人の內高等女學校へ進むもの尋常科百六十七人高等科五十人技藝學校へ進むもの尋常科二十二人高等科九人內地の中等學校へ進むもの高等科九人及び尋常科から高等科へ進むもの若しくは家事に從事するもの高等科を卒へて家事に從事するもの等が三百六十三人あるとの事である。

東京で鼻高々と 征虎軍の獲物を東京驛前に（積んで江戸兒に見せて居る山本唯三郎氏）

●鑛山熱で 素晴らしい景氣

咸鏡南道端川方面には昨年來[illegible]鯉上りに騰つた咸南の奥地では本年來[illegible]金山等に乘込んで小規模の探鑛に從事して居るから土地の黑鉛鑛の發見さるゝもの多く從つて鑛業家が到る處に從事して居るから土地の景氣は素晴しく好くなつて來た外に農民は來年春頃から採掘を開始する鑛山が增加する事を見越し一升十二三錢で賣買の出來た朝鮮米が更に騰貴して十七八錢になり更らに最近に至つて奥地方面の[illegible]箇所の鑛山が近々許可されると云ふ噂が立つと益々强腰になつて一切賣應せず中には二十錢から二十二三錢の高値を吹きかけるものもあると言ふ有樣で人氣沸騰は鑛山師の鼻息と共に俄々荒いものがある

◉心中娘は揃ひも揃つて莫連者
釜山の投身事件後報

釜山南濱海岸で當の少女二人が抱合ひ情死を遂げ十一日朝其の屍體が發見されたとは既報したが是が

▲詳報を聞くに一人は山口縣熊毛郡平生村當時釜山富平町二丁目居住仲仕田熊滿之丞長女こと（一七）今一人は愛媛縣伊豫郡北山崎村當時西町二丁目和田某方の女中高木つぎの（一七）といふ同じ年の二少女であつた、十一日午前八時半小南濱三丁目の海岸に女足駄一足

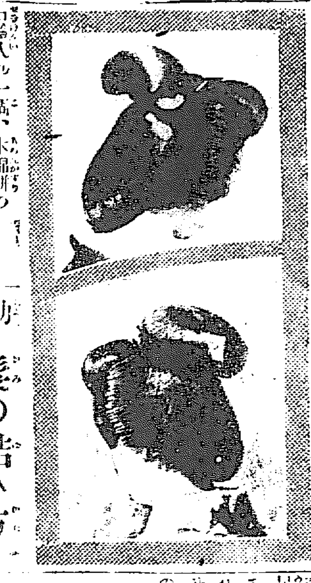
▲羽織の一個、木綿絣の兩袖はかりとが遺留されてあつた是を手掛りとして海岸一帶を搜索の結果遂に二人の屍體を發見したもので釜山署から係官と警察醫とが現場に檢視した、而して死後十時間以上を經過して居るらしく全く縁切れて居つたの結果其の

▲原因とも見るべきは本年八月頃田熊ことは活動寫眞館幸館の樂隊手朝鮮人某と關係し其の後は又寶來館の樂手某町人こも馴染みたる形跡あり度々外泊することがあり兩親も持て餘して居つた模樣である、一方の高木つぎの

▲奉公中に寶來館の樂手木村一郎某と通じ外泊することが多く兩人共遂に同氣相通じて甘い樂手の音に憧憬れつゝあることをつぎのゝ姉高木みさをが探知し本月七日夜寶來館でつぎのは痴情の現場を姉に發見され嚴しい折檻があつたので悔悟と

▲改悛の模樣であつたがつぎのは翌八日夕刻突然姿を晦まし搜索中であつたといふ是等の點から二人は話し合つた末遂に情死を企つるに至つたものらしいと屍體は夫れ／＼家人に引渡された

動題に因んだ 髮の結び方



年始のお髮も昨今の流行につれて日本髮の多い事は今から推量られるので御座いますが先に二三のを申上げます

◇海邊の松 くゝいびきは若い方は紅白で相當年齡の方は細いのをおかけになりますが概して以前よりは細目になつてゐます手柄は人に依つてお望みが[illegible]

◇丸髷の結び振は根加減を以前より下げ目にして上つたやうに見せる爲め根髷を引いて立て厚く薄くなく夏分よりは少し厚目なのが宜しう御座います前髪は以前より大き目に低くなりました髱は以前よりは一寸出ます髮は際から前へ引加減にフツクりと致します

◇結綿 昨今お嬢さま方が島田がおつくうで重いからと仰しやつて結綿に遊さいます掛け物はいろ／\ありますが鹿の子を花掛けにおかけになります結振は普通の島田より根加減を下げ目に取りそして髷たぼをヌッブりにして結ます

◇銀杏返しは根加減を割に取りまして以前より比較的高目に結びます掛け物は無地のものをフックラかけ致します（東京）[illegible]

◎共謀で捲上

慶南晋州郡晋州面[illegible]

◎雪除けの注意

龍山遞信兵分隊にては降雪の際[illegible]積地所は下水溝の附近[illegible]

贈答品は
優美なる漢陽高麗燒種々
大好評の明太魚カラスミ
御進物用化粧箱入 三本入 五拾錢 五本入 八拾錢 七本入 壹圓拾五錢 十本入 壹圓六拾五錢
京城本町二丁目 海市商會 電話二五〇番 一三五四番

讀者文藝（一等に五十錢 當選發表）

○鍬とスコップ（一等） 京城府内元町二丁目 こまや内 三〇生

▲佳作 京城 貳生、仁川 白雨、京城 いろは、龍山 小香子、京城 雲嶺、京畿 半酔、全北 軍孟陽、京城 風鈴 止

大阪期米

▲十三日後場
▲當限寄付 二十四圓三十六錢
▲中限寄付 二十三圓八十八錢
[illegible]

二錢と押し三錢二節中二十圓十三錢先八十三錢より四錢あり二三錢三節當二十圓十錢より二十圓と押し／五錢先三錢より一錢と押し三錢四節大阪[illegible]錢四節十三錢
▲先限一節十九圓八十二錢四錢三錢二錢三錢二節八十三錢四錢三錢[illegible]

後場 寄付 十九圓[illegible] 止メ 十九圓八十二錢 高値 十九圓八十六錢 安値 十九圓八十八錢 出來高 十九圓八十一錢 [illegible]

讀者文藝課題及び募集規定

□募集規程 ▲用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の外に住所氏名明記の事 ▲贈賞は一週間後 ▲種類の異る[illegible]

天氣

曇時々小雪（十二日午後六時より十三日午後六時迄）

▲十二月十二日 [illegible]

商況

證券現物特電
公債直取引
深川在米特電
東京期米特電
大阪株式特電
大阪三品特電
大阪期米特電
下關期米特電

[illegible]

●正米更に軟調 三圓迄の下落

[illegible]

買入は一見迄 二三十錢安

氣配 [illegible]

釜山穀物（十一日）

[illegible]

豫期 月末の買煽

[illegible]

◉洋酒の昨今

葡萄酒 三割高 ウイスキー 七八割乃至十割高 ブランデーは四五割高 [illegible]

雜報

◉綿糸布反撥

三百圓臺に引返へ 綿布龍レー十圓前 甘錢 上日十五錢方跳 十圓四十錢 [illegible]

◉輕油類底强し

[illegible]

◉各會社共態度の强硬なるを望む

[illegible]

◉平板更に低落

下三十番にて三圓十錢方を引き二十錢迄下れるが或 [illegible]

◉和紙は好況

加工品の如き品に依り品切物も少 [illegible]

下關相場

[illegible]

仁川正米

▲穀入拂少なく氣配は別段變らず正米必需口の外買留みなく氣配は一二十錢安な唱へ地搨玄米十八圓六十錢より上品八九十錢[illegible]

兵庫十錢 東京七十錢

[illegible]

市場雜觀

五六千石に上る 受渡しは一萬 [illegible]

叺繩筵 織物筵 石海苔用叺 及び荷造用筵各種 大田本町二丁目 箕浦商店 長電話五二番

白米標準値

二十二圓七十錢

小賣白米

現金賣 一等白米 二十三錢五厘 二等白米 二十一錢三厘

仁川期米

▲十三日前場 不變 兵庫二十三 [illegible] 候晴天 兵庫十八 圓十九錢 大阪 [illegible]

仁川取引所

[illegible]

北濱だより

[illegible]

今村豐次郎 [illegible]

田中金兵衛商店 [illegible]

●生蕃の子に西洋人が産れた

◇遺傳學上から視れば何でも無い　◇奉天で支那人の人類學的研究

南滿醫學堂教授　椎野博士の臺灣土産

◇奉天南滿醫學堂教授椎野博士は過般臺灣にて開催されし第十一回醫學大會に臨席して歸つた、そのお土産ばなしに曰く『今回の臺灣行きは突然の事でもあり且つまたホンの觀察旅行であつた爲め何等のお土産もありませぬ、私の演題は『四肢諸骨の筋力學的研究』といふのでありました、元來此の醫學大會は臺灣、滿洲、朝鮮の各殖民地の人が集會して互に其の

◇研究した結果　を報告發表しやうといふのであつて、奉天にては去る九月中に第八回滿洲醫學會を催しました、また私の臺灣に行つた今一つの仕事は私の特別の研究に係る臺灣の生蕃を見たいといふ事でありました、私は臺灣生蕃の人類學的研究の爲めに今から九年ほど以前、同地の蕃界に入り込むだ事があります、這回往つて見ますと其の當時とは丸で別天地の感じがしますが何んでも九年前には生命がけで

◇友人こも水杯　して出立した位のものでした、其の後私は奉天に來て日本人及び主として支那人の身體を見て居りますので比較研究するには大層便利な立場に居ります、無論生蕃の人類學的研究と申しても私のは主として解剖學上の研究に在るのですがこれを風俗、人情、習慣などの方面から研究した人には東大の

◇鳥居龍藏氏な　どもあるやうです、また西洋人としては獨て英國の學者が少々研究し猶ほ其の人の通譯や助手に當つた石井眞二氏が非常な抱負を以て臺灣の生蕃全體の研究に着手して居られるやうです、石井氏は目下英國留學中で其の研究も發表されず且つ戰亂の爲めに困つて居られると思ひます、臺灣の生蕃に就いてはまだ何等の系統的研究が發表されてありませぬが、臺灣の人々も是非左右云ふ研究の

◇發表されむ事　を渴望して居られるやうですがそれは却々困難なことだと思はれます、これは學問上を離れた極めて通俗なはなしでありますが由來臺灣の生蕃は日本人と親しく兄弟分同樣であるこいふ人があります、併し今では純粹の生蕃といふものは殆ど皆無といつてよろしく其の多くは支那人との混血兒となつて居ります殊に臺灣の東海岸の蕃地では南洋其に生蕃人でありながら其の子供にヒョッコリ

◇西洋人其まゝ　の人間が出來ました、眼が碧い、髮の毛がブロンド、素人は餘程不思議のことに云ふて居ますが學問上では決して珍らしくありませぬ、此の子の如きは直ぐその前か又は親の親即ち祖母さんの時代かに西洋人の血が混つたので遺傳學上から見れば數代前に和蘭人と雜婚したものと思はれます、これを以て見ても臺灣と界を接した支那人との交渉は全く免かれる事は能きませぬ、生蕃の

◇神話的傳說に　は大古天から二人の人が天降り一人は臺灣に留まり一人は東海に浮んだと云ふのだ相です、私も這回生蕃に關する諸種の材料を集めて來ましたが幸ひ奉天で支那人の研究を試みて居ますのでこれから漸次研究の步を進めてみたいと思ひます、且また支那人の人類學的研究に於てもあらゆる材料を蒐集して將來

◇奉天の醫學堂　に往けば支那人に關係した材料は何んでもあるといふやうに致したいと思ひます、幸ひ滿鐵當局に於ても非常な好意を有つて貰ひますので將來有爲の青年が此の材料によつて奮發研究されむ事を希望してゐるのであります。（奉天）

●取引金建問題は先づ一段落

大連重要物產取引所銀建問題に關し過日神成副會頭以下役員會を開き其の決議に由り大連取引所に金建を用ひる事は支那商人の最も不便とする處にして萬一都督府が取引所に金建取引を命ずるが如き事ありては大連取引所に受ける打擊は元より引いて大連市の盛衰に關する一大問題たるを以て俄かに金建に變更するが如き事無き樣上京中の相生商業會議所會頭を經て東上中の中村關東都督に

▲開申すべく　電報を發したるは既報の如くなるが其後相生頭よりの返電に依れば『拓殖局に白仁局長及び蠑山都督府會計課長に面會し意見を交換したるに金建は中村都督、白仁拓殖局長共に反對にて大藏大臣に實行困難の理由を双方主張しあり故に閣議にて決定し强壓的に實行を强ゆるが如き事は萬あるまじき故

▲安心して可　なるべしとの話なり宮尾長官には後刻會見の答なり併し注意すべし』とあり更に大連民政署長大内丑之助氏より商業會議所に宛て『朝鮮銀行券の强制通用方を公認せられたるに付大連取引所の建値も直ちに金に變更せらるゝものと速斷せる向ある如きも右金建問題は未だ上の議には格別實行上に就ては其時期方法に關し篤と考究を要すべく當局に於ても調査中にして急に之を實行するものに非ざる旨其筋より通牒有之候條誤解無之樣取計相成度候也』との注意有りたるを以て取引所建金化反對運動も之にて一段落を告げたるが某實業家は之れに就きて語つて曰く物產取引所に金建を俄に用ゆるならばと考へたるは

▲一種の杞憂　に過ぎざるべく當局及び朝鮮銀行と雖も恐らくは俄かに同所の建値に金を用ゆる事を想像せざるべし且つ都督を始め民政長官に於ても此の邊の事情に通ぜるを以て俄かに金建に改むるが如き事無かるべく又相生會頭より『閣議にて決定云々』とあるも之れを閣議にて決するが如き事はあるべき筈なく旁々以て取引所建値を近き將來に於て金化する如き事は無かるべし』と（大連）

●農民貯蓄狀況

著々成效の緒に就く

平南地方鮮人は一般に貯金思想乏しく爲めに農作の良不良により其影響殊に著しきが一昨年來打續く豐穰に何れも有福となり近時農民内には奢侈の傾向を來し漸く一般に瀰蔓せんとするもの、如く憂慮す可き狀態にあるが、郵便局所にては是等下級鮮人に極力貯金思想の普及を計らんが爲め勸誘宣傳と協力し各種の勸誘的印刷物を配布する等種々なる手段により貯金を奬勵しつゝありされど郵便局所に遠きは數里に達し僅少なる預金をなさんが爲めに態々局所に赴くは勞力時間等に於て却つて不經濟なりとし容易に成績擧らず焦慮し居れる狀態なるが最近地方農民貯金狀況を觀察し來せる某氏の語る處に依れば面長に於て各戸の貯金を取纏め是れを郵便局に預入するの方法を講せる個所あるも何分一面四里平方に達する地方あり爲めに豫期の成績を得ざる場所あり面長等にして熱心家なる所は里長自ら奔走し預金を勸誘し居れば成績顯著なるものあるも斯くの如きは至極稀れにして多くは自己の利害に關せざる處より放擲して顧みざるが如くなり然るに二三の面にては警務官憲と協力して里長をして各戸毎月一回集金を斷行せしめ遲滯二三箇月に渉る者は警官出張し說諭を加へ貯金の生存上必要なる所以を說伏し居れるが是等の面にては著々成功の緒に就き預金額も七八百圓に達し居れりと

●本溪湖より

安東支局　一記者

▲突然本溪湖より啓上仕候、近來滿洲の景氣素晴らしきは其都度拜呈致候寸楮簡單にても御承知の事と候へば今更ら管々しく其事は申上間敷候、左は云へ滿洲工業發祥の地とも稱すべき本溪湖の昨今殊に日支合辦本溪湖煤鐵公司の事業著しく豫定の如く進捗し第二鎔鑛爐火入式も尤も關係深き大倉喜翁始め支那政務廳長史記常奉天省交涉使馬廷亮氏等列席の上滯りなく相濟み愛に其の製鐵能力は從來に倍加し爲めに本溪湖の名聲一段の高きを加へたるに於ては强ち無用にもあらざるべくと敢て禿筆を驅りて寒暄を呈し上致候次第にて有之候

▲本溪湖の發展は煤鐵公司の事業擴大に正比例して所謂本溪湖は煤鐵公司で持つものと見て宜しく而して煤鐵公司は大倉で持つと云ふも過言にあらず候、同公司從來の製鐵能力一日百五十噸のもの今や倍加して三百噸となり採炭能力年三十萬噸は較山店鐵工所營業開始によりて一躍六十萬噸を期し尙ほ近かく製鐵能力は更らに三百噸を加へんと計畫進行中の由、公司事業の盛大は益々本溪湖の將來をして多望ならしめ居申候、加ふるに其の地無盡藏を以て許されつゝある石炭は近年に至りて大に其の販路を擴張し滿洲需用の石炭、北は長春吉林より南は旅順大連に至る一圓、年間消費額六千萬斤殆ど本溪湖產を以て充當するの狀又盛んなりと謂つべくと存候、殊に工業界建築界の活躍期して待つべきの昨今殊に然るを視るのみならず斯業の現狀其に山雨臻らんとして風樓に滿つるの概あるもの、如くに見受られ申候

▲本溪湖は既に石炭あり鐵あり石炭あり是れ製鐵工場として他の土地に比し斬然頭角を抜く敢て不思議とするに足らず候、加ふるに太子河の流れ汪洋として天然の交通機關をなし遼陽方面との鎖鑰をなし兩者經濟界の結合をして融然混然たらしめ居申候、從つて結氷の期に入れば時間と勞力との感念に乏しく且つ保守的氣分を以て充たされたる支那人は特に鐵道便を避け居れるの傾向著しきものありと聞き及び申候、從つて夏期と雖も尙ほ此の舊慣を墨守して顧みざるの徒あるにも拘らず本年に入りて驛乘降客は急遽に增加し平均一日昨年に比し近千餘名の多數を算し居候由以て本溪湖繁榮の一斑を知るに足るべくと存候

●長春雜信

▲昨夕より紛々として降り來れる降雪は今朝に至るも止む事なく午後よりは一層烈しくなり本夕已に積雪二尺餘に及べり、尙降り續け居れるが如斯大雪は當地にては稀に見る處にして人馬の交通殆ど遮られたる觀あり、されど氣溫は比較的溫く零度以下十度内外を下しつゝあり

▲豫て出願中に在りし長春銀行及び長春實業銀行の兩銀行は愈近く双方認可ある由内報を得たり元來長春に於て俄に二銀行の必要を認めざるは勿論なるが元長春銀行は共立株式會社こ稱し又長春實業銀行は貯金會社こ稱し共に變體の準銀行類似の營業を爲し來れるを、今夏其筋より業務銀行類似なればとて注意を受け銀行としてこそ今回俄に銀行と組織を改むるに至り從來双方共五萬圓の資金なりしを共に二十萬圓に增資して兹に銀行たらんとするに至れるなり、されど識者間には小銀行の併立は面白からずとなし之れが合併に盡力せしも双方の合同條件に非常なる懸隔ありて遂に不調に終れるより當局も意を兩行認可に決し捋てこそ今日の成立を見る事となれるなり

▲吉林督軍問題に關しては近時内に孟氏免ぜられて現鎭守使裴其勳氏代つて督軍たるべしこ傳へらるゝも之れを各方面よりの情報を綜合するに多少其のきざし無きにはあらざるも北京電の報ずるが如く直ちに行はるゝものと見るは早計に失すべきを保せず、即ち孟氏には多年恩顧の手兵あり、殊に高士賓とて姻戚の關係ある猛軍の長にあり、如何に裴氏及び郭省長にして手段を弄すると雖も手兵の一兵をも有せざる裴氏にして直ちに權力を以て取つて代る如き事の行はるべきにあらず、暫時孟氏の意を安んぜしめて後已に辭意ある事なれば孟氏の顏の立つやうになさしむれば孟氏の督軍の椅子を占むる又血ぬらずして和平の裡に行はるべし、世事に通せる裴氏にして豈に傳へらるゝ如き拙策に出ずる事なければ吉林督軍の決定は孟氏の自發に出ての後なるべし

▲近時長春及び吉林の發展は實に顯著なるものなり、玆に於てか、近日中に吉林或は當長春の何れかの領事館を總領事館に昇格せしむるに外務省に於て略決定せるやに傳へらる、是れ一省の督軍に對するに平ら領事にては斷行上不都合の場合多きによるものならん、現長春山内領事は日支兩國民の信望厚く殊に支那官民の氣受頗る好く尙官等の上よりも已に總領事たるべきの人なれば近く内に同氏は總領事に進級すると同時に領事館も昇格せらるべしと傳へらる

●淨瑠璃研究會

◆去る十日の夜浪花館で淨瑠璃研究會があると聞いて行つて見た、別段看板にも口上にも研究會らしい樣は見ゑ無いが番組は豫定の通り演つてゐた、時間が遲れて大村●喜登君の『酒屋』は聽き漏らしたが鈴木兒雀君の『いざり瀧』の中途から聽く、大分語り馴れたものらしく突込んで語つてゐたのは人物も好く動いてゐたが蓋屋が足りぬためか地合に綜の間を語れぬ所が一二個所あつた、後半を聽いた丈けゆゑ總評は預つて置く

◆土井松曉君の『紙治』●低いけれど節廻しは老巧なもので人物は皆な苦心の跡あり、京城の素人の『紙治』を聞いた中では先づ上乘の方、研究會の事故一言すれば綜の間を外した所一二個所あり、泣き入りはこの人として未だ苦心足らず、且つ體度はチト可笑しい方だ

◆後藤卓月君の『日吉丸』音聲力ありて一段の中黒人も及ばすと思はれた立派な出來榮の所があつたが以前聽いた『大功記』に比すれば人物振はず、五郎助も久吉も惡るし、且つ當て節を語るは聽苦しい、綜も判つたやうで分らぬ所があつた、是れも研究會の名に對して一言いたし置く

◆如何に研究會なりとも一段語るは少々手強し、素人はやはり手段を稽して研究として全力を注いで語る方が却て研究ともなり、聽者に取つても興味が多いと思ふ、三味線の節綜、語り手の息を計つて餘裕ある撥捌きを見せたのは感心した（一ファン漫評）

●筑前琵琶義士會

坂井旭水氏の主宰せる京城旭琵會にては十四日午後五時より本町宿舍に於て筑前琵琶納會を開催する由なるが恰も義士討入の當日なるを以て曲目も之に因めるのみを演奏すべしと入場無料、曲目は左の如し

合奏（水玉、水帆）松の廊下（水臨）赤垣源藏（水后）別れの盃（水南）村上喜劍（水靜）田村邸（水月）中山安兵衛（中村旭潮）竹林唯七（應援田中旭相）山科の別れ（應援細川旭江）大高源吾（橋本旭彩）南部坂（應援水波旭子）義士の討入（坂井旭水）

●安全確實に儲かる

◎三百圓で千圓內外の利益◎

●此の期間僅かに十日間★事實が之れを證明する●

▽疑ひ深い人は儲からぬ△

『銀行や郵便局へ金を預けて置く位なら勸業債券を買つた方が好い、年五分の利子が取れて其上に籤が附ける』こいふので近頃大分勸業債券を買ふことが流行してゐる、處が籤などは却々當るものではないから其中にはアンダ馬鹿々々しいこ云ふ者になつて

◆兩替屋　なごへ持つて行つて賣つて了ふ人が隨分ある、が、これは甚だツマらぬ事である、同じ債券を買ふこしても、當にならぬ籤などに眼を呉れなければ大に儲かる方法がある、其方法は何かこ云ふこ、先づ籤の濟んだばかりの債券を捜して買ふ、籤の濟んだばかりの債券は市價が低落して、ゐるから、九圓何十錢こ云ふ安値で買へる、それを三四箇月も持つて居ると復

◆抽籤期　が來て、十圓券で十一圓位に騰貴するこがある、これでも買手が澤山あるから、其時前に買つて置いたものを賣れば、一枚に付二圓內外の利益、十枚なら廿圓、百枚なら二百圓儲かる、籤などを當にするより餘程よい譯である、但し實を云へば勸業債券は太く儲けるには確かでない、金があれば其金で確實な銀行會社の株券を買ひ、少しく頭を働かせて右の方法を應用すれば、自分ながら驚く程の利益が得られる、勸業債券では一枚に付高々二圓位の利益に過ぎないが、株券だこ安い時に買へば

◆一株で　百圓も二百圓も儲かる、一例を擧ければ日本郵船株式會社こ云へば子供でも知つて居る日本一の大會社である、前期は七割の利益配當をして居るが、この會社の新株は去る十月廿五日の値段が百八十一圓であつた、其時買つて置くこ僅か十日後の十一月五日には値が上つて二百七十三圓五十錢になつたのだから、其時に賣れば差引一株に付九十二圓五十錢、十株で九百二十五圓の利益が得られたのである、

◆十日間　に僅十株で千圓近い利益が有つたこは實に驚くべき事實ではないか、若し又賣らずに持つて居ても會社から年二回五割七分こ云ふ莫大の利益配當が來る、此の如く郵船新株券を買つて儲けるには十株で千八百十圓の資金が必要であるが、其丈の金が無ければ出來ないやうに思はれるが、此處にそれだけの金を積まなくとも、一株卅圓十株三百圓の手付金を出せば同株十株を買占めて置くことが出來たのだ、そして十一月五日に賣れば矢張り前こ同じ九百二十五圓の利益を得られるのである

◆三百圓　の資金で僅か十日間に九百廿五圓（三千割强）の利益！、こんな面白い金儲けは株券買以外には無いこ云つても宜からう以上はホンの一例に過ぎぬが、其他

◆上手に　買ひさへすれば如何なる株であつても儲かる……

◆本社を　信じ本社の指導に從つて株券を買つた方々の中には……

◆ハガキ　一枚東京市神田區一ツ橋通町八株式會社富强世界社發行の『有價證券研究會規則送れ』こ申込まれよ直ちに內容のよく分る印刷物を無代で進呈する（小西富强世界社長）

軍隊毛布

必ず買へ遲れて後悔する勿れ

先頃來本社が提供せるロシア軍隊防寒用毛布の破格物在庫品眞に僅少なれば三千組となり決算都合上是非年内に賣放したし茶鼠大判二板續一組（無地）原綠値なる二圓九十五錢で御注文に應ずれば此際至急（ハガキ）で申込まれよ受付順に引換郵便で發送す、普通の店で五圓以下で買ぬ實用品也

東京神田　東京織物仲繼店　振替東京七三四六番

●冬物賣出し　拂下品被服類　弊店特製品類　和服類中古品

軍鐵道隊防寒被服、襦袢、袴下、手袋、靴下、巻脚絆、入用夫冬服多數品揃特に御注文は勉強仕候

長靴、トンビ、婦人コート、其他中古品、マントコート、詰襟洋服、折襟洋服、トンビ、引廻し、洋服大小類品揃

男女袷、羽織、袴、紋付類、右殊に上等物澤山荷揃に何品共特に勉强販賣仕候間多少不拘御注文奉願上候

和洋衣服商　龍山元町二丁目電話百五番　金子奧市商店　振替京城三八一三番

内科　胃腸病　診察夜九時迄

京城本町一丁目　石川醫院　電話二一七九番

佛國四分利公債募集

額面百法の拂込金額……●最後本公債が額面に達し……

●締切來る十六日

東京日本橋區本石町五　日佛銀行東京支店

此好機會を逸する勿れ

中央婦人病院

京城明治町二丁目（元漢城病院下横通）電話二三四〇番

勸業債券特別高價買入

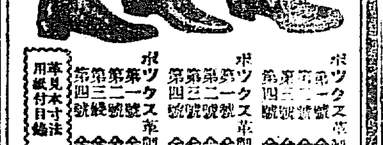
○貳千圓の八七新債券
○債券擔保低利貸付致します
○公債……低利肥料貸付の規……

大日本勸業合資會社　出張所長代理店主

眼科專門　江頭眼科醫院

京城明治町東拓横（電話二〇四四番）　日曜祭日午後二時迄　江頭宮雄

信用ある東京三金の靴



ボックス革深ゴム靴　第一號金五圓五十錢　第二號金六圓五十錢　第三號金七圓五十錢　第四號金八圓五十錢

ボックス革製變化靴　第一號金四圓五十錢　第二號金五圓五十錢　第三號金六圓五十錢　第四號金七圓五十錢

ボックス革編上靴　第一號金四圓五十錢　第二號金五圓五十錢　第三號金六圓五十錢　第四號金七圓五十錢

注文用紙付目錄送呈　革見本寸

以上の均一靴は精選せる材料こ熟練なる技術を以て最も入念に製造せし品ばれ一般紳士用に好適してしこ恥な品なり

御注文の節は靴の寸法記入の上代金引換小包送料實費にて送附す

東京市芝區愛宕下町　三金高等靴店　電話芝六九〇番・振替東京七一壹壹番

小鳥捕用　カスミ網

（極上絹糸製）〇其他雁鴨兎網無双網等種々あり

高さ六尺　横三間　二圓
高さ六尺　横五間　三圓

京城永樂町二丁目　吉備商會　電話三二四番　振替京城四三六番

帝國の財寶を領つ

◎株界の革新團生る!!

株式現物　鞘取同盟會

財界多事　投資の好時期は來れり　徹底的採算主義に本位の組織せる鞘取同盟は當來すべき經濟界にスタートを切らん

◎出資一口金參百圓也

趣意書規則書進呈

大阪市北區老松町三丁目

株式現物　鞘取同盟會　神風通信社

電話東三四六二番

◎神風指導通信

普通一ヶ月金拾圓也　電報同金武拾五圓也　試報壹回金參圓也（前金）

來りて豐國の民となれ

内科　小兒科　村上病院

京城永樂町二丁目（商品陳列館前）電話六三三番

院長　醫學士　村上龍藏

副院長　熊本醫學士　松下三雄

仁川期米

▲十三日後場　大阪變らざる入電にて先十九圓八五錢……十二錢と五錢安に寄付四錢と跳ね……二十圓〆五錢平場値段七錢四節〆……ト限二節二十圓十三錢三節十二

仁川米豆取引所

十三日の二月限

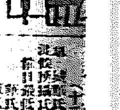
●連絡船上陸客

十二日午前釜山入港高麗丸一二等客……

十二日午後釜山入港さくら丸一二等客（一等十一名）宮城時彥、白川友一、飯尾……外八八名（二等十三名）佐々木建太郎、……

▼注意●讀者文藝は歳末につき來る十五日限りで休み、明年一月十五日から改めて募集いたします

▲ろ●宛名は京城日報編輯局讀者文藝係……稿を呈す但何書何號と明記に限……



京釜線(南行) 同(北行) 湖南線(南行) 同(北行) 京釜連絡 京義線(北行) 同(南行) 京仁線(仁川行) 京元線(北行) 同(南) [illegible]

左甚五郎

第百十二席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

甚五郎が鍔の表へ彫つたは紀州那智の瀧、岩は赤銅、水は銀、裏は正瑞の作岩上の不動は總て金銀の色繪でありまず。名人同士の細工でございます故如何にも美事に出來上つた。此の鍔を差上げた時大納言頼宣卿一方ならぬ御喜びで、此の鍔を紙の上に載せて置いた時に不思議にも其の紙が濡れました。頼宣卿是を御覽になつて「此の鍔を置いた處へ雲の降りし如く紙が濡れた、依て此の鍔朝露と名付る」と仰せられて御秘藏になる、此の縁で甚五郎正瑞の門人は紀州家へ御出入をすることになりました、此の濱野正瑞の弟子に矩隨といふ者がございました。此の人も後に名人と云はれ愛宕下大徳寺に殘つて居りますが、花に彫付けた十六羅漢、是には甚五郎も與に力を添へて兩人にて彫上げたのでございます。此の矩隨は幼少の時より正瑞の弟子となつて修行いたしましたが、性來不器用とでも申しますか上達が鈍い。正瑞も不愍に思つて居りますが何分にも仕事が出來ない乃で弱つて居りました。處が親父が亡なつて母親一人で困つて居りまする故、未だ年期はあるが母の居りまする神田豊島町の家へ歸し仕事を送つて遣る樣にいたしました、處が何分腕が鈍いので生活も困難であります。然るに正瑞の得意先で兩國米澤町に龜田屋武兵衞といふ袋物屋がございまして此人は矩隨が親孝行だからと、正瑞の許に居ります頃より大層可愛がつて力を入れてくれます。或日のこと 矩「エ、御無沙汰をいたしました 武「何うした矩隨さん久しく見えなかつたが 矩「ヘエ阿母が風を引きましたのが始めで、大層熱が出まして一時は大きに心配をいたしました 武「あゝ然うかい、[illegible]て居るかね 矩「漸く快い方へ向きましてございます 武「それは結構だ今日は何か用かね 矩「エ[illegible]物を彫りましたが一ツお目に下さいまし 武「見ても可いが矩隨さん、お前の彫つた物が箱に一ばいあるが一つも賣れない、今日は何を彫つて來たね 矩「ヘエ猪を彫つて來ました 武「ハ、アー猪を、ドレ拜見しませう、ハ、ア是が猪かね何方が頭だね 矩「目の附いて居りまする方が頭で 武「成程是が頭か不思議な物を拵へたね、まア〳〵親孝行を賞ふんだ、二朱持つてお出で 矩「有難ふ存じます 武「まアお待ちよ、コレ其の折を持つて來な、是はね矩隨さん貰つた菓子だ阿母さんの處へ持つて行つて宜しく申しておくれ 矩「有難ふ存じます 武「大事におしよ 矩「恐入りました、それでは是を頂いて參ります」と二朱の金に菓子折を貰つて歸りました、又七八日經つて矩[illegible]「先達は有難う存じました 武「おあ矩隨さんお出か、何うしたね阿母さんは 矩「もう恐皆癒りました 武「それは宜かつた 矩「今日は鐵物を彫りまして 武「又鐵物かね何を彫つたね 矩「狸を彫りました 武「您な物は彫らないね拜見しませう是が狸かね河童見た樣な顔をして居るね 矩「ヘエ、河童を彫らうと思つたら狸になつてしまつたので、武「ヘエー河童が狸に化けたのかね、まア仕方が無い二三日持つてお出で、コレお菓子を上げな、時に矩隨さん、誠に云ひにくいことだがお前さん、彫物師を廢めたら何うだね。迚も此の按排では名人になれないよ 矩「ヘエ 武「お前のお師匠さんは名人だが、其の弟子にお前の樣な人があると云ふのは何ういふものだ。こんなことでは何時迄[illegible]んを養つて行く事は迚も出來まい何か他に稼業を變たら宜からう」と云はれ流石に矩隨も涙にくれました。

毛皮なめし並に仕立
鳥獸剝製調進 羽根布團製造修理
鳥毛羽毛皮 毛類高價買入
剝製標本
京城本町二丁目
貿易商 樽元商行
電話[illegible] 振替京城[illegible]番

陸軍衛戍病院御用
御用 牛乳
京城東四軒町
岡野牧場
電話一〇六九番

京染 呉服
京都 [illegible]
たまや出張所
電話一一九六

十二月十五日 九星
舊十一月朔日 辛卯
本命 一白 北 平 大安

▲一白 始末におへぬ事有り新事見合西方は吉暗劍北 ▲二黑 不趣味な事有り新事手控へ[illegible] ▲三碧 [illegible]女子は行儀を守らるべし ▲四綠 めでたき日轉居[illegible] ▲五黃 [illegible] ▲六白 [illegible] ▲七赤 [illegible] ▲八白 [illegible] ▲九紫 不自然の事有り新事手控へ[illegible]

健胃消化錠

ゴルフ
タカヂアスターゼを主剤とせる胃腸の新製剤なり
東京室町 泰昌製藥株式會社

學理と實驗の一致せる
りん病特效新藥
‖化學式製劑エフエクチン‖
◎急性淋病、慢性淋病、消渇
◎ハガキで申込め説明書無料進呈
◎試藥提供 切手併封送附せよ効力實況の爲本新藥十錠進呈す
東京市本所區向島小梅町
東京藥化學研究所

演藝案内

浪花館 明治町二丁目 電話二六〇番
▲現代的浪界の花形吉川梅雀一行 [illegible]

有樂館 [illegible]

稻荷座 本町五丁目 [illegible]

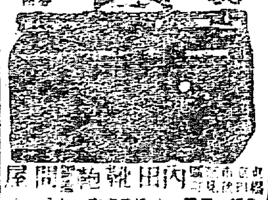
大正館 電話八七三 [illegible]

黄金館 電話二六三七 二六六 [illegible]

壽館 京城本町 電話一〇五〇 [illegible]

てんかん
病で時々ヒキツケ困る方切手二錢送れ永年の病も自宅で七ミツに治す事の出來た詳しい本を無代進呈
名古屋市南小川町一 救生舘

強胃消化錠 マーゲン
本舗大阪市 田畑保榮房
特約店 京城黄金町通二 新井藥房
大阪上本町五 田畑保榮房

鞄

内田靴鞄問屋

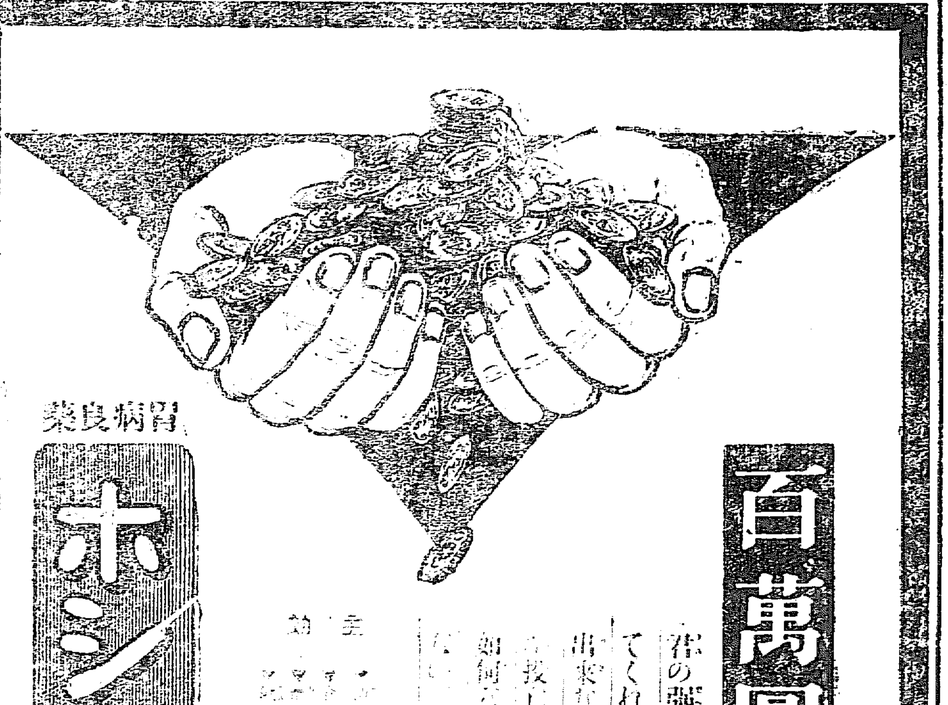
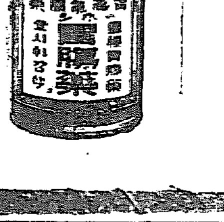
内科 小兒科
入院隨意
無料施療す(毎日五名を限り)
賛化病院
京城明治町一丁目 電話二四番
醫學博士 古城憲治
岡山醫學士 上野亮藏

男のひみつ病
内外國醫科大學御採納、東京帝大學病院始め博士學士[illegible]
專賣特許 [illegible]
東京 [illegible]
大阪 [illegible]
北海道 [illegible]

「内外各處に賞用せられ効能最も卓越せるは本劑なり」
大學目藥

登録商標
大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●星目●トラホーム●のぼせ目●疲目其の外眼病一切に驚くべき治効あり▲十歳以下の小兒の爲に別に小兒用大學目藥あり
大阪 參天堂藥房 發行

京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通)
電話 一八番 二六〇番
酒井婦人病院
院長 酒井一郎


百萬圓でも
君の強健な其胃の腑を百萬圓出すから僕に賣つてくれ給へ——と言はれた處で是ればかりは出來ない相談、けれども茲に良法あり、金廿錢を投じてホシ胃腸藥を求め常に服用試みられよ如何なる胃腸の患も直に治つて百萬圓でも買へぬ健強な胃腸に恢復される。
胃病良藥
ホシ胃腸藥

定價 二十錢 五十錢 一圓
各地特約店藥店にあり
星製藥株式會社
東京京橋南傳馬町三丁目
電話京橋 一七八五 二〇五三

販賣價格改正稟告

初冬寒節の砌、各位益々御隆昌奉敬賀候。陳者小店毎々御眷顧を蒙り業務逐日發展仕候段厚く御禮申上候。偖て

ミツワ石鹸

の儀、先般價格改正仕候處、戰亂の影響として更に主要原料たる牛脂、苛性曹達及香料等の騰貴底止する處無之。遂に

大形 壹個に付 金貳錢

中形、小形も之れに準じ値上げするの餘儀なき次第と相成申候、斯は小店の最も遺憾とする所に御座候得共、到底人力の如何ともし能はざる、世界的經濟界の大勢に支配さるゝ萬不得已儀に有之、何卒右事情御諒察の上倍舊御愛顧の程偏に懇願仕候

大正六年十一月

ミツワ石鹸
ミツワ椿油
ミツワ家庭藥
ミツワ規那鐵葡萄酒
ミツワ人參葡萄酒
ミツワドロップス
肝油
御園化粧品
發賣元

東京市日本橋區橘町四丁目
登録 丸見屋商店
商號
[illegible]

京城日報

第五版

十四日朝刊（夕刊併せて八頁）

戰局如何

京城日報

歐洲戰役勃發以來、例年冬期は講和運動の季節とも謂ふべく、戰局に一段落を劃すると同時に、平和回復を企るものありて、此期に、[illegible]然るに今や時恰も[illegible]に至り、西部戰線伊太利戰線の戰闘愈々急なるあり、露西亞及び羅馬尼が戰闘を休止せる外に世間復た講和を云ふものなし、獨逸も戰爭は實力を以て勝敗を決するの國家的行動なり、戰爭者の實力未だ盡きず、勝敗未だ定らざるの時を以て和を講ずるあらば、聯合者相共に不平不滿を懐くのみならず、遠からずして又復戰爭を開始せざるべからず、是れ苟も平和回復を語るべからざる所以にして世間遂に此に悟り最後の大決戰を見るにあらざれば復た講和を云ふものなきなり。

昨今露西亞獨逸間休戰交渉最中にして、羅馬尼も亦休戰を宣言したりと云ふ、羅馬尼は暫く言はず、露西亞は千九百十四年冬早く既に獨逸と單獨講和を行はむとするの情あり、千九百十五年春英佛兩國と深く相約して露國を擁護し、單獨不講和の盟約を固くしたれども、露國政府の志常に此にあらず、去三月革命後、露西亞人民はロマノフ朝に反して飽まで奮闘すべしと呼號したれども、其力は其の言と相添はず、前の假政府首相ケレンスキー氏既に露西亞は力盡きたりと告白し、假政府倒れて後所謂過激派政府なるものは公然獨逸と交渉を開始し、復戰ふの意思なきことを明かにす、我味方の中より此の如き者を出したるとは、洵とに痛恨の極なりと雖も、今更言ふも益なし、協商諸國及び日本北米合衆國等相俟りて、其力を戰闘に致し、最後の勝利を得るまで爭ふの外なきなり。

是より先き獨逸は露軍の爲すなきを見るや、其の露國戰線に在るところの兵員を他に移して、漸次[illegible]を開始す、其の南方に廻送したるものは、先づイソンゾ方面の伊軍を驅破して、深く伊太利國内に侵入し、其の西部戰線に増遣したるものは、英軍の進出面を攻撃して、進勢甚だ急なり、蓋し是れ獨逸の最後の努力たるべく、獨逸は[illegible]現在の英佛軍を相手として一戰を[illegible]今春以來西部戰線に於て、一步[illegible]退却するのみにて、[illegible]ら其陣地を支へて、今日に[illegible]るものなり、然るに北米合衆國[illegible]新たに戰線に参加し、既に十[illegible]の兵を歐洲大陸に送致し[illegible]最近東部電報に依れば、米國陸軍省は其陸軍二百萬を西部戰線に發遣するの準備を調整したりと云ふ、是れ恰も我味方の勢力を倍徙するものにして、獨逸に取りては死刑の宣告を受くると異なると無し、乃ち最近其兵を西部戰線及び伊太利戰線に集め、急攻力進に專らなるは、則ち米國軍隊の未だ戰線に臨まざるに先ちて、早に[illegible]て戰局を結ばむと欲するものに外ならず、今日講和運動の盛なるべき季節なるに拘はらず、之を斷つて却て戰報を聞くは、則ち偏へに獨逸の力將に盡きむとして、平和回復を急ぐの氣あることを知るを得べし。

支那漫遊

蘇峰生

岑春煊翁を訪ふ

現今の支那は、朝野與に若手揃ひ也。其中に在りて、老輩として尙ほ政治的生命あり、信望あり、其の發言が、實際の政局に於て、較や重せらるゝもの、北に徐世昌あり、南に岑春煊あり。予は十一月十五日の午後、豫約によりて、岑翁に面するを得たり。

南陽寄廬の門札を揭げたる門に抵れば、門半ば鎖し、閽人不在を以て辭す。强ひて名刺を出せば、持して與に赴く間もなく、全門を開き、直ちに自動車を通して、玄關に横附けせしむ。

岑翁は實に支那人中、毛色の稍や變りたる快活男兒也。彼の政治主義は、利害得失よりも、正邪善惡にあり、彼は北方の軍國主義にあらず、南方の民主主義にあらず、云はゞ孔孟流義の政治主義者也。而して其の自ら彊毅にして、清廉力ある、彼をして小規模ながらも、其の主義の實行者たらしむるの、資格なしとせず。彼が一たび總督となるや、其の部下の贓官汚吏は、[illegible]

[illegible]

[illegible]予は必らずしも日本政府に、日支親善の誠意なしと云はず。但だ若し眞に日本政府の宣明したる如く、無干渉を徹底せしめば、南北妥協、調停統一の實、今日に於て、已に擧らざりしならむ。然るに日本當局者が、北方に金錢を融通し、且つ武器を供へて、北方を援け、爲めに、北方をして武力解決を要望し、南方之に反動して、愈よ其の地步を固執す。而して其の災禍を受くる者は、唯だ支那の生靈あるのみ。此の人民を[illegible]に陥れつゝある、責任の幾分は、日本政府亦た之を甘受せざる可らずと。

彼の發見は、南方に偏したる立場よりの議論也。されど彼が少くとも、一片の誠意を以て、之を主張しつゝあるは、何人も之を認容せざる可からず。彼風采一野翁の如し。閑散の相なく、寧ろ豫鈍の風あり。されど精悍の氣は眉宇の間に現はれ、意志の堅固なる、其の頸骨の角張りたるにて、説明せらる。而して眞摯の態度、人をして親み近かしむ。支那の舊人物中に於ては、蓋し異邈し難き一偉漢也。

大正六年十一月十六日朝　上海に於て

議論日

十一月十五日は、寧ろ議論日にてありき。同夜は南方派領袖の案内にて、余郵園に招かる。園は廣潤にして、花木多し。李烈鈞氏の故宅なりと聞く。譚人鳳、孫洪伊、柏文蔚、戴傳賢、譚延闓、丁人傑、蔣尊簋、彭程萬の諸氏主人役たり。戴傳賢は、即ち日本にて知られたる戴天仇氏也。

予が座に入るや、談話は直ちに譚人鳳氏と交換せられたり。而して會食中は勿論、會食後も繼續し、遂ひに約三時間、寧無しに意見を交換せり。交換と云へば、双方より意見を受授す可き筈なれども、譚翁は殆んど悉く、予の意見を緊退したれば、寧ろ意見を聞かしめたりと云ふ一を、精確に解す可き耳。

譚翁は本年五十九歳と云ふ、驍健にして、長大ならざるも、[illegible]眼光に[illegible]目に稜角あり。[illegible]

[illegible]

予曰く、春秋戰國以來、支那には中央に周公、孔子を主とする系統あり。北方には商鞅、韓非、李斯を主とする、數の系統あり。南方には屈宋を主とする、辭賦の系統あり。而して老莊の思想は、南北與に其の人情、習慣、制度によりて、適宜に應用せらる。周已に滅び、天下は秦楚の決闘となる。秦、楚を滅して、天下分裂す。定し復た秦を滅して、天下を一統し、漢高は秦の相續者となりて、楚を滅し、天下再び一統せらる。而して尙ほ呉楚七國の亂を免かれず。今日支那の政局を察するに、直隷派は秦にして、南方革命派は楚也。二十世紀の現在、尙ほ秦楚の決闘を繰り復しつゝあるにあらずやと。然も此の如き議論は、頭の固き譚人鳳氏よりも、寧ろ若手の戴天仇、丁人傑諸氏に於て、或は聊か諒會する所あらむ歟。

大正六年十一月十六日午前六時半　上海に於て

朝鮮古墳の變遷（十二）

八木奘三郎

歷代古墳の變遷

相渓(?)の古墳には先史時代のものなへる覆土なき粗大不規則の石槨[illegible]一期より二期の初めに當れりと云ふが古く日本の古墳時代に於ける[illegible]首肯し難しと雖も、顧ふに右は予日本にても披見せば格別、然らざれば[illegible]日本に存せりとの說はセメテ[illegible]方の遺蹟として一地所に論を述ぶる當なる可し、又此風の古墳が[illegible]

[illegible]

し、然るに其間に挾まれる鮮滿の地に限りて此例を見ざるは一奇なら[illegible]或るものは之を目して高句麗時代の古墳なりと云ひ、又或るものは時代不明と稱せり。去れども予は先史時代の觀察者にして且つ其證左を握れるに依り、先づ此遺蹟より記述す可し。

第一　先史時代の古墳並に民族

[illegible]

そうして（十三）

布施生譯

[illegible]

街角まで往くと國は國栖の方を見返つて『ふん、少く淋しいな。』とう。して彼樣處から降りたらう』と言ひながら例の增築に建懸けた梯子を指した。『何もあんな處から出ないだつて一年も二年も家族同樣に住んでゐた家ぢやあ無いか、あの猫の猫が無かつたら到底あんな處から出たものとは思へないね、それやそうとあの娘の寫眞を是非一つ手に入れたいものだ。髮が黑くて眼が黑くて色が白くて瘦形の姿だつた、れねおいそんな人相書で如何して此大きな巴里の町で尋人が出來るもんか』と言ふうちに不圖何を看附けたのか探偵長は磁と手を拍つて『やあ遊方へ又武烈氏が來たぜ、はゝあ訪ねて往つた先が留守だつたな、一つあの人に當つてみてやらう』言ひ終ると遠慮する樣もなく步み寄つて何か二つ三つ問ひ掛けた。

[illegible]

[illegible]易に行方は突留めかねる。そうなると仕方が無いから君に一つあの家の事を探偵して見ふんだ、若し此事件が容易に眼鼻がつき乘るとすれば事件の中心は乾度あの家の中にあるんだからね』國栖は探偵長の顏を見て『貴方は何か看附けたんですね、僕はつい看過したが、で無ければそう確らしく仰有る筈がない』『なあに別段外の事を見たんぢやないよ』國は手短に否定したが國栖は頭を振つて肯かなかつた。國は續けて『なあに驚は君も見たんだよ、唯君は結論を作るに充分な要素を拾ひ出さなかつたんだ、それだから僕を責めるのは酷いぢやないか』國栖はもう物も言はずに國と伴立つて警察へ歸つた。

仁川期米

十三日後場　大阪變らざる入電にて先十九圓八十二錢と五錢安に寄付四錢に跳ね[illegible]後場當限三四二十圓十錢三十圓二十圓〆五錢平均値段七錢四厘〆五錢　中限二節二十圓十三錢三節十二[illegible]

仁川米豆取引所

十三日の二月限

[illegible]

本紙定價　一部金五錢　一ヶ月金五十錢（△郵稅一錢△一ヶ月金十五錢）[illegible]
廣告料金　[illegible]
發行兼編輯人　奥田直
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　京城日報社　電話[illegible]

▲廣　告▼

緊急廣告

歲末に際し例により注文非常に輻輳し十五日以後に至れば自然仕上期日遅延可致哉も難計急ぎの向は此際至急御下命被下度此段謹告仕候也

京城本町二丁目
京城日報社 寫眞製版部

大正七年[illegible]號

農家之指針(?)

[illegible]米穀取引ニ趣味ヲ有スル人士ニ無代配付[illegible]

[illegible]賣店

紳士も奥樣も學生も高尙で面白い室内遊戯はコレ

闘球盤

說明書 定價表 御申越次第送呈す

京城本町二丁目 大一商店　シノザキ商店　サクラ屋

最新刊

書名	著者	定價
日本神祇史	岡泰雄	一二〇
[illegible]國寶目錄	黑坂勝美	一八〇
[illegible]	[illegible]	一二〇
美術の部	澤木楨	一六〇
通俗倫理學	井内盛雄	一〇〇
御匠	秋野孝道	九〇
禪窓夢話	[illegible]時保	九〇
東海道中膝栗毛輪講	三田村鳶魚著 定價九十五錢	
浮城物語	矢野龍溪	九〇
ガラタ塔より	小林菁水	一三〇
珍ぷん感ぷん	[illegible]	七五
新劇一年有半記		七五
戀と死 トリスタンとイゾルデ	後藤末雄	六五
綠蔭千里眼	洗心女史	一〇〇
目白より	壬生秦子	六〇
小說 暴風雨の跡	米山[illegible]	九〇
觀町の冬と防寒法	矢野國太郎	三五

大正七年度當用日記懐中其他各種日記全部荷揃致候留切れ内に御報次第持參致すべく候

大阪屋號書店　京城本町[illegible]

明治屋へ
明治屋へ

例年の通り來る拾五日より歲暮並にクリスマスの御贈答品陳列左記の景品附賣出し仕候

（御買上金額一口金壹圓毎に籤壹本）

壹等 女持金側時計　六等 鳳凰印ミルク
貳等 七十圓 勸業債券　七等 活動寫眞 觀覽券
參等 金五圓 吳服券　八等 洋菓子小函入
四等 甘味葡萄酒　九等 郵便端書
五等 四合瓶酒 月桂冠　十等 ライオン歯磨

營業品目

キリンビール　壹打 半打 化粧函詰
洋酒　籠詰 函詰
洋菓子　折詰 罐詰
洋風生菓子 各種
各地名產珍菓 各種
葉卷 紙卷 煙草
商品切手

弊店發行の商品切手は左記の本支店共通に相成居候に付何れの店にても御不便無く御引換可申候
東京。横濱。名古屋。京都。金澤。大坂。神戸。門司

京城本町一丁目
明治屋京城支店
電話（三二一）（七二二）番

○南京に督軍會議

李純氏主催の南京會議は主として南方側代表者のみを集め密議せるが李氏は更に正式に各省督軍に通電し會議を開く旨を告げたるが二十日迄には少くも十三四省の代表者を集め得る見込なりと（上海特電）

○汕頭近く陷落か

汕頭擾亂に就き當地某方面に達したる情報に依れば南軍は潮州府攻擊に全力を用ひ居れるを以て同府は多分日ならずして陷落を見る可し而來同府は汕頭を距る五里位の險形の地なれば同府の陷落は直ちに汕頭の陷落と見るを至當とす可し前革命の際も同府陷落に續き汕頭の陷落せる事實あり（安東縣特電）

○露海軍の脚止め

休戰條約に附隨せる露獨密約に依れば露國海軍はレウエル、クロンスタット、波羅的海の各軍港にて繋留せる儘一歩だに航運する事を禁ぜられたり（倫敦電報）

○獨逸財政の窮乏

最近の獨逸財政狀態に就き信ず可き統計に依れば獨逸帝國議會にて開戰以來協贊せられたる軍費は九百四十億馬克に達し公債を發行する事六回此の總額六百十億馬克に及びたるが七回公債發行開始の際は既に三百三十億馬克の缺損を假ひたり尚ほ獨逸が聯合軍の爲め攻略せられたる獨逸領土内に於ける戰時の損害賠償負傷者戰死者の遺族に對する手當等の特別支出額は又一箇四百五十億法の巨額に上り此の外政府が公債の利子支拂並に當時要する軍費は月額平均三十億馬克一箇年千八十億馬克を下らざる可しと云へば如何に獨逸財政の窮乏せるやは右の計數に徵するも明かなる可し（巴里電報）

○獨國内不平に滿つ

獨逸新聞の檢閲嚴重を極め且つ社會黨の集會演說等を禁止したる爲め非常なる不平を惹起しつゝあり（倫敦電報）

○米國株界恐慌

十三日大阪入電に依れば米國大統領は鐵道を政府の手に管理せんとするの意を漏せるより諸株一齊に暴落せり（大阪特電）

□伏見宮邸行幸

百穗畫伯の光榮

天皇陛下には十三日午後二時總川侍從次長陪乘波多野宮相以下供奉紀尾井町なる伏見宮邸に行幸あらせられ貞愛親王、博恭王兩殿下を始め宮内官の奉迎を受けさせられ階上便殿にて兩殿下と御懇話あり後平福百穗畫伯の『馬』及び『海邊松』の御前揮毫を天覽あり其れより舞踏室に臨御薩摩琵琶御前演奏を聞し召され引續き活動寫眞御覽食堂にて晩餐を召させられ後更に活動寫眞天覽の上七時過ぎ還御あらせられたり（東京特電）

○博義王御通過

軍艦磐手に御乘艦遠洋航路に就かせらる可き伏見宮博義王殿下には十三日釜山御通過佐世保に向はせられたり（門司特電）

○古海總長去來

古海拓務總長は十三日馬山より來晉十六日金泉に向け出發の筈（晉州特電）

○香港總督長崎發

香港太守サー、ヘンリー、メー氏は十三日長崎より香港に向へり（長崎特電）

○米總領事通過

京城駐在米國總領事ミラー氏は十三日午後八時半安東縣通過北京へ向へり（安東縣特電）

◎歲晩の金融界

大阪　青霞生

金融市場は本月に入りいよいよ緩慢と相成候、去月末に一時地方に散布せられたる資金も迅速回收し來り一面有價證券市場も更に豫期に添はず委靡不振を極むるの姿なれば資金の新規需要はますます減少し遊資は東西市場を通じて潤澤を極め居り候、一面兌換券發行高は六億五千萬圓を維持し其の還收は甚だ遲く候、これ一般財界の實際的膨脹を意味するものにして此巨額の發行高も殆んど全部正貨準備に基く發行なるより之をみれば全く國家的實力の增進にして從つて金融緩漫に比例し兌換券の收縮せざるは當然なりと存じ候又輸出貿易の米國金出禁ありと雖も貿易の決濟は何れよりか自然正貨を流入し正貨の流入は兌換券の增發を促し來り金融の前途はいよいよ緩漫の度を增加するに至るべく候、先づ本月は恰も大節季に會せるを以て今後月末氣分の漂ふにつれ一時的緊拙を見るべきは固よりなりと被思候

◎國境貿易活況

北道豆滿江沿岸國境貿易は年々二割内外の增進を來し大正五年には百二十五萬餘圓を算せしが本年は十月迄に於て既に輸出八十一萬二千八百四十四圓輸入百一萬四百三十一圓計百八十二萬三千二百七十五圓を算せり尤も以上の中朝鮮銀行間島出張所開設に伴ふ紙幣再輸出額二十三萬圓を削除するも尚ほ前年の貿易額に比し輸出三萬四千七百八十四圓輸入三十七萬三百八十九圓を超過せり而して之が貿易割合は間島四割五、露領一の割合にして輸入の重なるものは間島粟、木材、琿春木材、粟、馬、露領木材、牛馬、水產物の順位也又輸出の重なるは間島方面に於ては魚類紙卷煙草米の順位琿春方面は生牛を主とし酒精石油之に亞ぎ露領方面石油生牛等なり（清津）

◎私營造林事業

大正六年に於ける私營造林事業は其新植面積二萬九千六十四町歩植栽本數九千六百三十四萬九千本にして之を明治四十二年以降每年の植栽面積及び本數を比較すれば左の如し

年度	新植面積（町）	植栽本數（千本）	歩合
四十三年	五〇四	一、九四七	[illegible]
四十四年	三、四八一	一〇、六三三	五
四十五年	七、一九四	二一、五八八	一一
大正二年	一三、一六六	三八、三五五	一一
同三年	一八、八六八	四九、〇三一	二五
同四年	一九、六二四	五八、五九二	三六
同五年	二八、〇五五	八四、〇六六	四三
同六年	二九、〇六四	九六、三四九	四九

右表に依り該事業の逐年進展しつゝあるを知るべし然れども增加歩合を比較するに大正六年に於ては其前年即ち大正四、五年の增差の如く大ならず恰も一頓挫を來せるに似たれども是れ天然生稚樹の移植は成績不良なるを以て其數を極力減少せしめたる結果にして從て養成苗の植栽數は前年に比し著しく增加せり而して大正六年に於ける造林事業の比較的發達せるは京畿道、慶尚南道は前年と同じく最優位を占め忠北、江原、全北、慶北、忠南、平北、全南、黃海、平南、咸南、咸北の順序なりと

◎汽船運賃引下と鐵道

滯貨漸增の趨勢は若干緩和されん

日本郵船、大阪商船、尼ケ崎、互光の四組が協定の上内鮮間穀類運賃を釜山より阪神行き百石

▲三十圓下げ　仁川群山木浦鎭南浦より二十圓下げを十日決定せし事は既報せしが右の結果鐵道貨物に如何なる影響を及ぼし來るかを察するに大體に於て從來內地行き貨物は汽船運賃が甚だ高率に過ぎるため勢ひ比較的低廉なる鐵道托送に頼る觀ありしも現に既に鮮鐵金線には二萬餘噸の滯貨を見居る位なるが今回汽船賃の引下は船車運賃の差を狹めし譯にてそれだけ

▲船積み　貨物の增加を來すことは疑ひなかるべく、群山仁川の如き尼ケ崎並に大阪商船の臨時配船にて現在多くの船腹不足の盛なきも今後は米豆出廻りの盛季に入るに伴ひ或る程度迄の船腹不足の避け難かるべく或は朝鮮郵船會社に配船の希望を陳述し來るべしとも觀せられつゝあり、今船賃改正前後の運賃と鐵道運賃の比較を見るに改正前は

▲釜山より　釜山より阪神へ船賃百石百八十圓なるに對し鐵道は大豆七十二圓米八十四圓にして約百圓方の下値にありしも今回は七十圓の差に減せり

▲群山より　群山より阪神行きは從來船賃百石二百圓にて鐵道は大豆百零三圓十二錢米百三十七圓四十錢なるため其差六十餘圓乃至百圓なりしも今回四十八十圓と狹ばまれり

▲仁川より　仁川より阪神行きは從來船賃二百圓に對し鐵道賃は大豆百零五圓五十六錢米百四十圓にして略ぼ群山と同樣の差を見改正後も殆ど群山の數字と相似たり

▲鎭南浦より　鎭南浦より阪神行きは從來百石二百二十圓にして鐵道は大豆百二十四圓六十三錢米百五十圓三十錢にして百圓乃至七十圓の差ありしも今回改正の結果八十圓乃至五十圓の差となれり唯鐵道の輸送力は關釜聯絡並に山陽線の輸送力不足に拘束され現在の一日六百噸を絕對に超ゆる能はず又其の賃金低率なるため托送の著しき減少を見る如き事なかるべきも少くも鐵道托送滯貨漸增の趨勢は今回の汽船賃引下げにより若干緩和されんか

◎客月京城商況

米穀は本年一般收穫期の遲れたると檢査合格困難なるとに依り十一月に於ては未だ手廻り多からざりしも其の廻著せしものは總て好値にして

▲前年同期に　對照すれば米一石に七八圓方大豆一石に三圓方の高價なるに不拘內地產米不足の盛は米穀をして益々發勢を現はさしめたる爲斯界に一層の活氣を呈し牛皮は生牛の移出と生牛商との關係にて出廻り甚だ少く一時鈍狀に陷りたるを以て前月程の活況を見ざりき次に移入品の大宗たる綿絲布は前月暴落せし以來商況不振の狀態なりしが其後大阪の氣配の段々堅硬なりしと需用最盛期に入り品物拂底なるとに基き

▲漸次立ち直り　月初は金巾三八節一捆（二十反）二百四五十圓綿絲十六手一捆（二十玉）百二十圓位のものも漸騰して月末には金巾三百餘圓綿絲百四十餘圓に孰れも暴騰したる爲手控勝なりし向も突然買氣を喚起し其他の商品も之れに伴ひ稍活潑となり近來未曾有の好況を呈しつゝ越月せり今京城稅關出張所の取扱に係る本月中の當地貿易額を見るに輸移出品價四十六萬九千八百七十六圓輸移入品價二百九萬六千七百圓合計二百五十六萬六千五百七十六圓にして之を前月に比すれば

▲輸移出に於て　二十一萬八千餘圓輸移入に於て五十七萬餘圓を增加せり而して更に之を前年同期に對比する時は輸移出二十一萬九千餘圓輸移入三十九萬五千餘圓の孰れも增加を示せり

◎京畿叺製造獎勵

京畿道管內に於ける叺製造高は昨年中約百二十萬枚を産出せし爲め恰も戰時の際船腹不足にして內地より叺の移入困難なる折柄鮮內穀物の出廻り漸增するも差して支障を見ざりしが京畿道にては更に本年十月より明年九月迄に百七十萬六千四百八十八枚を産出すべき豫定なりと而して現在道內の叺需要數は一千百四十萬なるが明年十月以後更に一千五百萬枚增加の見込にして京畿道にては目下叺製造獎勵の爲め各郡に對しては相當の補助を爲し四斗叺製造の傳習を爲すべく企圖する所あり本月初めより各郡に於て講習を爲し內地叺移入の減少に努力しつゝありと

◎清津近海漁況

清津近海に於ける本冬季鰤漁業は從來漁船少きと鰤の漁期早かりし爲め從漁者は總て此方面に走りし爲め漁獲思はしからず九月中旬鰤魚を開始し十月末鰤網に漁獲ありて以來十一月末までに約七十七萬尾一萬二千餘圓の漁獲を見たるのみなるが咸北道內に於ける一般該漁業は甚だ良好にて十月末迄に咸北迫より輸出せるもの開鰤十二萬五千圓にして既に昨年より三萬圓を超過せるが該漁業は十月が最盛期なれば同月中の漁獲物は十一月に入て輸出さるるが故に十一月後の輸出數量は多大なるべく總合計に於て本年の輸出數量は二十萬圓以上に達すべき見込みなり（清津）

◎哈市形勢重大

―過激派遽かに勢力を得　帝國領事出兵要求か―

一時小康を得たる哈爾賓は遽かに過激派領袖リユーチンの勢力加はり來りしかば遂にホルワット將軍は各國領事團に對し哈爾賓の治安維持不可能に陷れる旨發表せり現在哈爾賓の露兵は四千名にて其內過激派に屬する者二千名に達す。支那兵は既に三千名に達し尚十四日長春より五百名を急派する事となれり在哈爾賓帝國領事館にても秩序維持の爲め政府に向け帝國軍隊の出兵を要求する事となれり哈爾賓の治安は全く破壞せらるゝに至れるものゝ如し（長春特電）

◎陸榮廷調停拒絕

唐紹儀、伍廷芳兩氏は南北調停協議の爲め陸榮廷氏に會見を申込みしに陸氏は既に直接總統と協議を開始したれば來るに及ばずと體よく之を謝絕せり（北京特電）

◎鐵道院新驛開業

本月一日より北海道釧路停車場を移轉し旅客手小荷物に限り取扱ひ在來の釧路驛は濱釧路と改稱し一般大貨物のみ取扱ふこととなれり尚同日より釧路臨港開通特殊驛を開始せるが右は濱釧路驛線路に包含するものなりと而して停車場及び哩程左の如し

（停車場及び哩程表 [illegible]）

人事消息

▲藤谷□氏（[illegible]）十二日着入京

▲京十四日朝義州へ

▲吉田秀次郎氏（朝鮮郵船）十二日午後元山より歸京

▲ミラー氏（京城駐在米國領事）十三日午前北京へ

▲須藤素氏（江原道一部長）十二日朝內地へ

▲宮原正治氏（伊勢神宮神部署長）十三日午前內地へ

百鬼百話

故後藤象次郎伯が土佐の荒倉神社の記錄に依つては鐵を製出することの可能を知り十數名の博士技師に依囑して同神社境內の土質を研究したとかあつたが▲其れは古代戰國の刀劍が皆之れから作られたと記錄にも殘り▲南蠻鐵が輸入せられだしてから却て其の質が劣惡になつたと云ふ其の道の人からの話を聞いて此の試みをやつたのであつたが到頭不成功に終つた事を內田良平君が平山博士に話すと博士は早速研究に着手して居たが▲此程完全に土から鐵を製出することを發明したとかで▲內田君大喜びで土壤に鐵分素を含む鑛區を全國十數箇所に出願して▲一寸見て居給へ之れは世界的の大發明だよ―と大乘氣になり何でも二十日頃其の詳細を發表して世間を驚嘆さしてやると大意氣込みだそうだ▲加奈陀ハリファックス港の椿事は露國大火藥庫の失火と紐育附近ブラック、ダイヤモンド島の大爆發と共に空前の三大火藥爆發の椿事である▲ブラック、ダイヤモンド島の爆發の際には闇黑の海上を走つて來た怪しのギャソン艦艇が唯一の疑問であつたが▲陰謀の其れは遂に有耶無耶に葬られて來ただけ不思議として疑つて居る許りであるが▲ハリファックスの椿事は入港汽船の衝突と云ふ原因が明白だから幾分安心も出來る樣な者の▲大西洋沿岸の兎角物騷な昨今世上も少しの油斷も出來ないワイ

○客月清津貿易

十一月中……千二圓合計百萬七千……四十七圓額に及ばざりしに本月初めて出超……既報の如く大藏省は大正七年度歲……間し來りたる由にて鄉稅は開港……を來すべきも概算一箇年十……十二萬餘に達し一箇年の增加率……十月迄に入港超過總數は實に十三……公立普通學校より出火校舍一棟を燒失し損害約七千圓……道本線南驛三の宮間に驛停車場を新設し一般旅客手荷物の取扱……

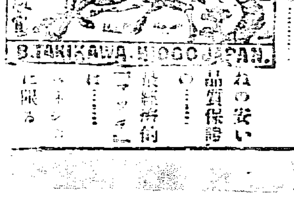
法律顧問　實業法律
◎日常法律顧問雜誌實問解答掲載　◎年極購讀會員郵便電話質問應答　◎各地支部員募集照會及見本七錢
一年分共金七十錢　特別定價廿錢
十二月號目次

金銀買賣店
京城府鍾路通二丁目九十番地（青年會館前）
主　李種大
▲二十四金（純金）精美製造販賣業

◎會長　秋田鑛山專門學校長　工學博士　横堀治三郎先生
會員募集　採鑛冶金學講習錄
金治金學　鑛業法　分析試金　鑛物學　採鑛學　石油學　選鑛學　電氣學　機械工學　水力學　鑛山測量
◎見本付會則無代進呈
東京神田區大工町八番地　採鑛冶金學講習會　振替東京二三〇九六番

富の道しるべ　村上濱吉先生著　價十五錢　郵稅二錢

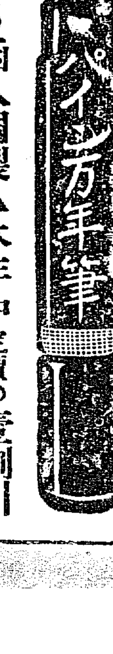
マッチ（燐寸）は……に限る



品質保證
京城本町　森久本店　電話三六〇番

至急謹告
仁川　糸岐商店

大日本政府登錄商標
"PINE"



▲歲暮賣出▼
最高尚なる年末年始の御贈答品
優美なる函入調製▲本年中定價の壹割引
特許既願防破裝置附
繰出式萬年筆　金六圓八十錢
押出式紳士向　金五圓三十錢
インキ止式婦人用　金三圓八十錢
インキ止式紳士用　金四圓九十錢
インキ止式學生向　金三圓八十錢
パイン學生號　金二圓八十錢
不具合又自然破損は交換快諾又は無料修繕
發賣元　京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部　電話三二六。六六〇番　構內一八番

相互保險の開祖
非營利主義
我社は保險事業法に依り基金の全部を償却し終りたる今や加入者の共有する所となれり故に本社事業より生ずる利益は全部加入者に配當す
未曾有の好配當
我社の本年に於ける利益金は九十一萬餘圓にして本年より向三ヶ年間繼續して四分五厘の配當を爲す此の如き高率の配當は未曾有なり
最も親切
我社は開業以來百九十三萬餘圓の保險金を支拂ひたるも一回も支拂の裁判を受けず內外に其の例を見ざる所なり
東京市日本橋區通三丁目一番地
第一生命保險相互會社
電話本局特四一七三六、一七三七、一七三八
案內書あり贈呈
京城旭町一ノ一三〇（電話二七六五）　朝鮮地方部長　堀田遊度
外務社員招聘　御希望の方は御來談を乞ふ

毒瓦斯製造工場爆發

◉世界有數の彈藥工場の一◉

——獨逸に取つては戰場の大敗北と同じ位の打擊——

獨逸フランクフルト附近に在るグレシアム、エレクトロンの大化學藥品工場爆發の爲め破壞されたり右の爆發は世界有數の彈藥工場の一を喪ひたるものにて獨逸に取りて其の打擊の重大なる戰場に於ける大敗北にも比す可し

▽獨逸第一の毒瓦斯製造所

グレシアム、エレクトロン工場は廣さ五十四エーカーに及び硝酸製造工場として最も重視され毒瓦斯並に毒彈の製造高に於て獨逸國内第一位に在り昨年中該工場の製出せる毒瓦斯は一日平均六十萬立方呎に達せり。尚同工場は

◆ツエッペリン飛行船充塡用の輕氣分解水素を供給する爲めに同工場に二三千の飛行船を有する格納庫が附近に設置せられあり

◆唯一の硝酸 ナトリユーム製造所と稱せられたるものにて一日平均一千噸を産出し尚硝酸、グリセリン、ダイナマイト、爆彈用綿火藥工場をも附設しありたり(倫敦電報)

景氣の好い杵の音

聞え始めるのも此の日曜頃から

▽餅屋と米屋 の店先きから覗いた今年の暮の景氣

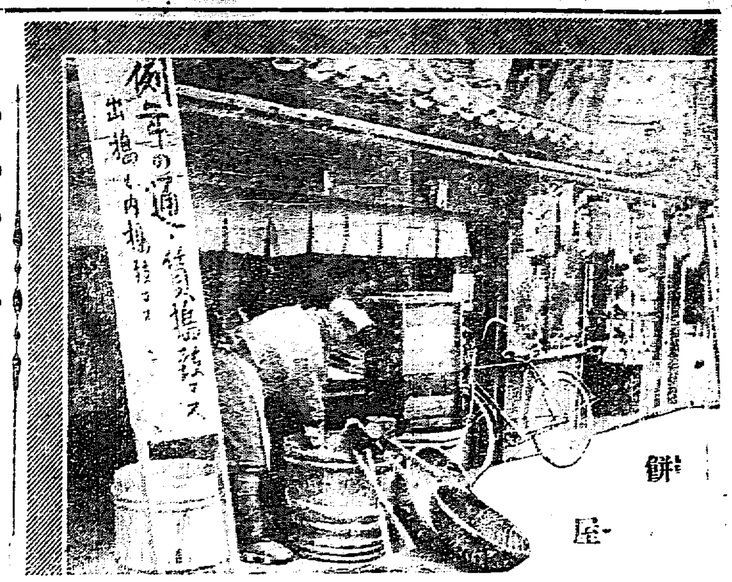
押迫つた昨日今日市内の餅屋では例年の通りちん餅の註文取りに丁稚小僧を四方に走らせる様になつた餅屋曰く「本年は糯米が三十二三錢に騰つた上に私達の方でも薪物や取粉などが五割以上も騰つたので搗賃を九錢乃至十錢に値上げしましたから安くも一升四十一二錢は要るだらうと思ふ昨年に比べると十錢以上も高いので一寸註文が少い様に思はれるが商人は一般に景氣が宜いし左官大工などの職人衆と懐が暖いので

▽大分華美にやる様です 官吏や會社員の方でも正月の餅だけは減すとゲンが惡いと言ふので例年通り註文しますから餅屋の仕事は數年來になく多いだらうと思ひます勇ましい杵の音が聞え初めるのは十六日の日曜頃からで二十四五日からは

▽殆んど徹夜で搗廻らねばならず二十八九日頃になると一人で五石餘り搗いても足らない程忙しい日に遭ひます京城で一番多く搗くのは何と言つても旅館料理屋の水稼業で旅館の「浪花館」「花月」などでは三俵から五俵位ですと」次に米屋を訪ふ「糯米は品薄です内地から移入しますが三等米が多く

▽糠も一俵に二三升位あるのが多く水原や平壤から來る糯米の方が歡迎されます本年の糯米は品質が惡くて値段が馬鹿に高いのでしたので一般需要者は非常な損です」餅搗く音が聞え出すと年の暮も愈々慌しくなつて來る職人や消防手などが

▽粹せな法被を著て杵を輕かに市内を搗き廻る姿や杵に和す三味線の音などは歳暮の一景物として人の心を暖めるものである



餅屋

郵税引上と都督府收入

(滿洲)此項一般增税計畫と共に議會を通過するや否や計り難きも豫算編成に當り遞信省は都督府通信管理局宛郵税引上げ後の豫想等に就て上申するや諸般當時も不明の間に於て後の都督府通信收入は前記電報料金に未確定の計數を含むを以て後

滿洲邦人增加

(大連)滿洲在留邦人は最近の調査に依れば本年十一月末迄にて日本人の入港者數は四萬餘人に達し出港者に對して入港の超過は一萬六千人に上れり更に外國人を合すれば本年

加害者は妹婿

奈良縣の四人殺し 奈良縣添上郡田原村字和田にて四名を殺せし加害者は被害者の妹婿樋口市次郎(三一)にて逮捕されたるが自己の姉に[illegible]の汚名を着せしを怨みてなり(大阪電報)

恐ろしい迷信から郷里を見棄てた愚昧な民

平康に於ける騷擾事件の眞相

江原道伊川郡方面の騷擾事件に就ては既報の如く[illegible]事件を惹き起し里長を傷けたる後[illegible]忠南雞龍山に移住せんとして官憲と衝突して兇徒側は二名死亡し官憲側は憲兵二名負傷し里長一名負傷者を出したることは既報の通りなるが

◆是れが原因に就き聞くに彼等兇徒等の居住地たる方面は京元線洗浦驛より九里を隔てたる山間の一僻村にて山谿約一里の間に散在し居る十七戸の小部落なれば里民は其の日暮しの生活難を感じて居ることも其の原因を惹起するに至りし一原因と見るべし然るに彼等が樂天地として移住を希望したる忠南雞龍山は朝鮮に於ける名山の一にして忠南論山郡の南部に跨りて

◆古來由緖多き靈山にて公州邑内より四里目下は山麓迄自動車の便あり彼等は此の名山雞龍山に移轉すれば恰かも天與の樂園に這入るかの如き古來傳說の迷信に騙られて曰く「一夜神現はれ我等に對し彼の雞龍山に立て籠れば神靈に依り生身に銃丸も弓矢も刺さることの出來ざる不可思議の靈顯を得るとの神託あり」と盛んに流言し同所に引越すため郷里を出發する際の如き唯一の食料たる米穀類も飼養中の豚なども悉く

◆其の儘拋棄したる程にて全く迷信を確守したる結果

◆吾等の一味には[illegible]郷里を後にして[illegible]を流布して暴行を働き[illegible]部落の如き[illegible]

漁夫十名行衛不明

江原道江陵郡新里浦より所有帆船に同人外五名の漁夫と乘組み十一月二十六日同浦出帆中風浪に襲はれて離破漂流して乘組員全部行衛不明となれり急報に接し浩岸各警察署にて搜査中なるも未だ發見するに至らず

其昔李朝の太祖

[illegible]を此の地に定めんとしたる由の處現はれ此の地は帝都の地として不適當なるを以て移轉せよと告げたるより遂に京城に遷

不正漁夫十三名檢擧

[illegible]

帝國軍艦を南支那へ

邦人保護の爲め派遣

支那南方の動亂に就き在留民保護の爲め軍艦數隻を派遣するに決し呉にて修理中なる軍艦千代田も其の完了を俟ち十五、六日頃南支那廈門方面に出動重大任務に就く可し(東京電報)

◇春場所は

▽中堅に缺ろ所

ある新東方の評判

◆來春の新番附を豫想して見ると、どうもそういふ氣がする。といふのは新東方と新西方とを比較して見ると肝腎の中堅に於て新西方が頗る立ち優つてゐるのを感ずる。前頭筆頭どころの對馬洋源氏山は姑く措くも、遂の矢常の花、駒泉等の顔が並んでゐるのは何んとなく淋しい氣がするではないか。これに反して新西方に大戸平と確なところが寄つて敵の

◆中堅に 當らうとしてゐる

◆新東方 ではなんといつても大錦、西の海、栃木山、九州山等の七箇乃至九箇は動かぬところと見るを得べく兩國、對馬洋、源氏山、宇都宮、逆鉾等の五箇乃至六箇を得るは差して困難にはあらざるべきも下て釋迦ケ嶽、小常陸、綾川、大門岩、福柳等はいづれも取りよき位置にあるだけ相當に働くことが出來るだらうがその餘の者に至つては

◆星勘定 に當つて黑星のために壓倒されることは請合ひと言つてよろしい、更らに續づいて新西方を見るに太刀山が出場すれば八九箇乃至勝放しの成績を收めることは容易だらうがその他を見る

◆不成績 を演じ全然失敗でもないといふ感じを與へるのである。それは春場所[illegible]

歳暮大賣出し

日の丸小間物店

福引景品附
金壹圓毎に差上可申候

京城本町二丁目
電話千九百二十番

十五日より卅一日まで

京日案内

質 田村質店 黃金町二丁目長橋町 電話二九一六番

無關係 京城旭町一丁目 160

電話讓渡したし 構內電話十六番へ

恩給年金立替 博多屋

恩給年金立替 國江商會

鳳凰寶月

太陽商會

參◯貳◯番 京城本町二丁目(舊旭町二) コドモヤ 洋裝店 161

三州旅館

讓店

初春の早々御樂しみ

六十七回新債券の提供
當店買値段 十一圓也
買は現品到達次第御送金申上候
表相場にて賣買可仕市内は店員參上

京城永樂町二丁目 桐生屋京城株式店
仁川宮町 桐生屋仁川株式店

誠實
コロタイプ印刷。繪ハカキ製造
諸官廳、各學校、諸會社記念寫眞帳
諸雜誌口繪類其他コロタイプ印刷
寫眞應用各種年賀狀。繪はがき類
門田寫眞製版所
龍山漢江通り八番地 電話(龍山)五三六番

◎歳末大賣出し
クリスマス年末年始御贈答品は皆樣に最も歡迎される樂器に限ります
一卓上ピアノ一個金一圓十錢より各種
一大正琴一個金二圓五十錢より各種
一ハーモニカ一個金六十五錢より各種
オルガン。ヴァイオリン。マンドリン。尺八。明笛。銀笛。其他附屬譜本類一式(目錄贈呈)
卓上ピアノ
京城本町二丁目二十九番地 山葉樂器朝鮮代理店
販賣元 釘本樂器部 電話一二八三番

清酒値上廣告
一大樽一丁 金五十錢
一一斗賣 金十五錢
一一合賣 金五厘
右組合決議の上大正七年一月一日より値上致候間此段謹告仕候也
京城酒釀造組合

比較は最良の撰擇法なり!!
サクラ正宗 サクラ正宗
山邑京城支店 京城明治町二丁目
電話 八四一 四五四 九四四番 振替京城五七番

時計及蓄音器卸商
創業明治二十八年
京城黃金町二丁目 喜多金光堂
電話一〇一五・振替京城七八二

櫻御殿

大阪　霞の家主人

第九十四回　縫生男子（七）

入助は主の大事と見るか否なや、清之亟の投げ捨てた刄を拾つて、いきなり躍り上らうとした、此時

『不埒者、控へ』と高く呼んで、銀杏が一室を駆け出づる、自籍の鈴番、同じ王禅、手には長刀を持つて居る、入助もし助左衛門に助太刀せば、女ながら相手にならうと覚悟は見えた

入助は気を呑まれて立ち竦む、清之亟は聲を掛けて

『狂気したか助左、お互に一騎よ、り持たぬ命ぢや、お互に御馬廻の[illegible]

[illegible]お主を刺し違へる筈では無い、女の首を[illegible]、その首が何處にある、手前の[illegible]約束を破つて[illegible]

諫一刎ね返すに力もない、脇差を抜く自由も持たぬ、清之亟が一流の達人であることは、兼てより聞かぬでもなかつたが、自分との役柄に、これほどの懸隔があらうとは思ひ寄らなかつた

されば此場では、清之亟の諫に従つて、初瀬の首を持参致すと誓つて、命を全うし家に歸るか、何處までも意地を通して、清之亟の刄を受けるか、二つの中の一つを選ぶ外はない、然も、こゝに命を落すは、あまりに智慧のない話である、この程の凱嫌うした後日に落ちたも、悪るところは、初瀬が卑怯な振舞をしたに事起る

一層いはあの女ぢや、彼の女の首を持つて清之亟の首と取り換へるのでなくば、武士の意地は立たぬ」

助左衛門はやつと覺悟を定めて

『分つた〳〵』と云つた、清之亟は頷いて助け起す、それが小鍔を扱ふやうであつた

お役に立つて、末代まで名を輝かさねばならぬ命ぢや、俺の意地を張り合ふて、むざ〳〵と捨てゝ済む、夫ほどの考へないお身でも無いを、誰かに煽てられて参つたな」

「一思ひに殺せ、一思ひに刺し殺せ」

助左衛門は云ひ続ける

「生死は一代の大事、軽々しうはならぬ、自體お身との約束は、初瀬の首と、手前の首とを取り換へる筈でないか」

「さりとて、その初瀬、卑怯にも夜に紛れて」

「ちやに出つて云ふ、女などに取り合ひ召さるな、女と獣とは隣合ひぢや、一つ選ぶと、女がすぐ犬になる、その犬の爲め、二つとない命を捨て、それで奉公の道に協ふか、殊にお主との約束は、女の首を犬のやうには殺さぬ、合點が行たら分つたと云へ、それで無くば一日でも二日でも、斯う組み敷いたまゝで居る、年齢でこそ若けれ、お主などに敗は取らぬ」と清之亟は悠然と云ふ

清之亟は初瀬の挙動を悄く思ふあまり、彼の手に由つて、初瀬を無いものにしたいと願ふ、助左衛門もし初瀬の首級を持ち歸つたら、そこで初めて本心を打ち開けて、彼の面目を立てさせようとしたのであつた

初めから考へて居たことであつた助左衛門は無念の涙をはら〳〵流した、斯ほどに脆く清之亟に制服される程の技師で、広言を吐いた事が口惜しくもあり、また清之亟の言ふことが、一々胸に滲みる如く有理に聞かれもするので、今は何うして好いか分らなくなつた。

銃 修繕 玉井銃工場

日報俳壇

野分　課題

■浦瀬會詠草（海州）

箕落つる水音澄む夜の野分　同
島の江水を汲む舟人や野分　同
甘蔗畑に蔓吹き溜る野分哉　都次郎
灯點して工場観廻る野分かな　一波
梯子して屋根に石置く野分哉　同
酒手呉れて親を急がす野分哉　小蝶
野分晴れし且の丘や人の聲　霞城
土手傳ひ一人刈る兒に野分哉　天逐
厨の鉢の來て去る門の野分哉　不二雨
測量の地圖に砂吹く野分哉　二葉
一列の高梁を流く野分かな　廣葉
羽音鋭く鳩が飛びゆく野分哉　森象
野分の後を村皆生きて炊ぐ哉　静江
空狸に夕日拋つ野分かな　草兒
骨堂

■赤ン坊　悲雨樹

赤ン坊を枯草の上におろして○
海より水蒸氣あがる眞ツ白き霜○
コスモスの立枯れ寂しき夕朝○
落葉降りしく梢を見上ぐるた○
枯草の膝もよ赤ン坊をおろし

新刊紹介

▲婦人畫報（一二）十二錢東京麹町區内幸町東京社
▲帝國青年（一二）十三錢帝國青年發行所
▲女の世界（一二）二十三錢東京
▲實業之世界（一二）十八錢東京神田實業之世界社
▲一大帝國（二の一二）十六錢東京芝
▲實業之世界（臨時増刊號）二十七錢東京
▲西洋料理 電氣すき焼 ハイカラ丼 カフエータイガー
▲日本魂（一二）二十錢東京
▲中外（一二）三十五錢東京赤坂
▲惑溺時論（一二）三十錢東京赤坂
▲海友 九二 十五錢大阪
▲潮（一の九）十錢東京
▲月報 六〇 二十錢奉天
▲大阪銀行通信録（二四三）三十錢大阪

□柿紅葉の下　公州

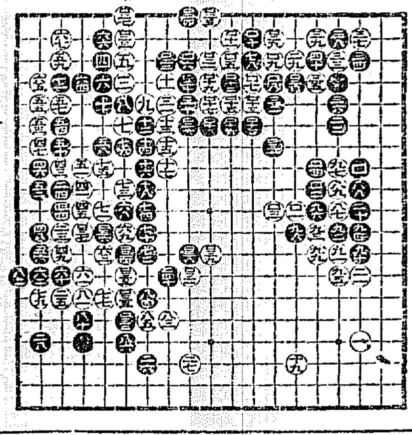
■正月の子供雑誌

■クラブの世の中

圍碁手合

十番第一局　三段 山平喜氏　二子 大久保雅彦氏

自六十三手至一百四十二手



第四十三回ノ三譜

大阪株式市場　大阪期米

おくつて體裁よく、もらつて重寶な
歲末・歲始の御贈答として
冬の肌アレを防ぎ色白くなる
ホーカー口粉
中瓶大瓶は一本宛桐箱入
白さの點と新發見の
ホーカー液
三個入進物箱は頗る優美
定價 ホーカー液小瓶廿錢中瓶四十錢大瓶八十錢 ホーカー口粉

鑛泉應用滋養菓子

發賣元　大阪　松下善四郎商店

大正七年
國民日記
發行以來頗る好評注文殺到す此の際至急御用命を乞ふ
朝鮮發賣元　京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部
取次販賣店　大阪屋號　日韓書房　ウツボヤ書店　各地京城日報支局各書店
定價五拾錢　郵税八錢

新荷著
懐中時計

尼崎汽船 仁川出帆

共同汽船 仁川出帆

釜山出帆廣告

朝鮮郵船

大阪商船 仁川出帆

日本郵船 仁川出帆

イングレッシー商會